

甦れ！ 139年の伝統

（深紅の旗の下に）



第139周年
甲府中学・甲府一高
同窓会

2019年5月19日 甲府 記念日ホテル



甲府中学校校歌

一、我等は日本に生まれたり
神の御代より一系の
皇統戴く我國に
生れしことのうれしきよ
皇國の榮えは天地と
共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる
甲斐の國あり水清き
郷土の歴史顧みよ
我等の務め輕からず
見よや南に富士ヶ嶺は
皇國の鎮めと聳えたり

三、大海原の揺りやまぬ
波をも風をも凌ぎつつ
護れ皇國を諸共に
國民舉りて國のため
撓まず萎縮まず辟易がず
進むぞ大和ごころなる

甲府第一高等学校校歌

一、甲斐の國 みに建ちて
古へゆ 雄心傳へ
新しき 世の鑑とし
勉めてむ この學舎に

二、日に新た また日に新た
彌高き のぞみをもちて
眞なる 理究め
勵みなむ 若人我等

三、聳え立つ 芙蓉の高根
清き哉 甲斐の山川
もろともに 玉と磨きて
賛くべし 天地の化育

起て撃て勝て

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

仰ぐ芙蓉の峰さやか

穹天まさに轟かむ

見よ精鋭の集へるを

結べる眉に必勝の

誓ひは固しわれらが精鋭

おお

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

希望の光

一、希望の光 身に浴びて

若人の意気負うて立つ

いま選手等の門出を

空もとどろに 応ふらん

二、敵軍いかに 猛くとも

忍び伏せたる梓弓

鍛えし腕引きしほり

敵のかぶとを 射落さん

三、見よ穹天の 雲は垂れ

霸権を握るは今なるぞ

蚊竜の意気胸に秘め

いざや起て起て わが選手

鶴城に

一、鶴城に桜花咲き

人は皆歡樂に酔ふ

われ一人落花を浴びて

前の恥花園に泣きぬ

二、秋来る健児の胸に

強き意気宇宙も空し

桜花の旗ひとたび振れば

醜の群れ微塵に飛ばむ

ヤッツケロ ヤッツケロ

ヤッツケ ヤッツケ

ヤッツケロ

お御崎さん

お御崎さんの神主が

おみくじ引いて

申すには

いつも一高

勝ち勝ち

勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち



「甦れ！―39年の伝統 ／ 深紅の旗の下に」

第139周年 甲府中学・甲府一高同窓会

実行委員長 宮川 勇徳

昭和62年に甲府一高を卒業して、東京の大学に進学しました。全国各地の高校から集まった新入生で最初のクラスは構成され、気の合うグループが出来ました。お決まりの自己紹介はもちろん、お互いそれぞれの出身高校の紹介、自慢話で盛り上がり、話に花が咲いたのが懐かしい。歌手、俳優、プロ野球選手等、大体ある程度歴史のある高校には何人か著名人のOBがいるものです。

群馬県立高崎高校の出身者が言う。「今の中曽根総理は俺の高校出身だよ」

皆が「へー」とうなずく。

それを受けて「総理大臣なら、石橋湛山は俺の高校出身だよ」と、私。

「石橋湛山は山梨県出身か。君の高校は中々渋い（味があるという意）ね」と、まだ受験勉強を終えて間もないクラスメイトたちは、短命の総理大臣、石橋湛山のことをよく知っていて、その出身高校、わが甲府一高に一目置いてくれました。ひと通り、母校出身の有名な自慢が終わり、今度は、甲府一高の「強行遠足」のことを皆に説明してみました。

「100 km！冗談だろ？一晩中歩き続けるのか？寝ないのか？」

「山梨から長野まで歩くのか？学校行事のマラソン大会で他県まで行くのか？」

「全員完走するのか？暗がりには怖くないのか？道に迷わないのか？」

のか？」

質問攻めです。一生懸命それに答え、ようやく質問が尽きると最後にこう言われました。

「君の高校、甲府一高は凄いな」と。

あれから約30年、50歳を迎え第139周年甲府中学・甲府一高同窓会の当番幹事となりました。先日、久々に大学時代の友人が集まり、学生時代の話で盛り上がる中、他県の各高校の同窓会の当番学年の様子を聞いてみました。1000人の同窓生が一堂に会する甲府一高の同窓会・懇親会の規模は他にはなく、その運営の仕組み、強行遠足との関わりから東京同窓会までの一連の流れ等、友人たちの驚きは予想どおりでした。

「やっぱり君の高校、甲府一高は相変わらず凄いな」と。

同窓会の当番幹事となって、あらためて甲府中学・甲府一高の伝統を強く且つ重く感じると共に、自ずと一高入学時の頃の記憶が甦ってきます。私たち昭和62年卒業生にとっては、約35年前の、サブ幹事の平成16年卒業生にとっては約18年前の記憶が甦ってきます。本日の同窓会のテーマ「甦れ！―39年の伝統／深紅の旗の下に」は、本日お集まりの同窓生の皆様一人一人の年代の一高の記憶を甦らせ、この139周年という長大な一高の伝統を再認識する機会になってほしいという願いを込めています。139年間という長き年月に渡り、3万余名の卒業生が築き上げた伝統を、この深紅の応援旗の下に甦らせてほしいと心より願っております。

昭和 62 年卒業生クラス写真

1組

担任 山本 秀彦 先生

在籍 47 名：男子 47 名

女子 0 名



2組

担任 中川 文明 先生

在籍 47 名：男子 28 名

女子 19 名



3組

担任 赤池 亨 先生

在籍 48 名：男子 31 名

女子 17 名



誌上交流「夢と向き合う」

甲府一高一年生 × 昭和六十二年卒

(平成三十年度)

母校一高への熱き想い

歩んできたそれぞれの物語

後輩たちへ送った渾身のメッセージに

現役一高生は、何を感じ何を想うのか

夢や希望、そして将来への不安

先達の人生に自分たちの今を重ね合わせながら

それぞれの人生観や職業観に迫ってみた

先輩へのあこがれと後輩への激励

三名のメッセンジャーと高校生が共鳴し合い

「夢と向き合う」ことで見つけたものとは：

本誌上で年代を超えた温かな交流が実現した



今回の特集企画では、人生観や職業観について、
現在、第一線でご活躍の昭和六十二年卒業生のみなさんと
将来に向けて進路学習を進めている現役甲府一高一年生が
それぞれの立場や経験をもとに誌上での交流をしていただきます。

メッセンジャーの皆さん

(昭和六十二年卒)

Yukimi Kurata



倉田 ゆきみ (旧姓村松)

外務省

大臣官房文化交流室・

海外広報人物交流室課長補佐



Takuji Yasude



安出 卓司

諏訪赤十字病院

神経内科部長・脳卒中センター副所長



Tomomi Mukawa



武川 智美

MBS (毎日放送) アナウンサー



甲府一高一年生の皆さん

(平成三十年度)



まずは、メッセンジャーのみなさんから、
自己紹介もかねて近況報告が届きましたのでご紹介します。

一高生のみなさん、はじめまして!

Yukimi Kurata

甲府一高一年生の皆様、初めまして。昭和六十二年卒の倉田(旧姓村松)ゆきみと申します。

私は、小学生時代、幼少期から習っていたバイオリンの演奏旅行で米国や欧州を訪問したことをきっかけに、英語習得や異文化への関心を深め、一高の三年時には、「米国政府高校生招致計画」という米国政府の奨学金でアイオワ州に留学するというチャンスを得ました。アメリカ人家庭の一員として生活しながら、地元の公立高校に通ったこの一年間は、私の人生の分岐点となり、今もなお日々の糧となっています。



その後、日本で大学を卒業してから再び米国に渡り、カリフォルニア州の大学院で修士号を取得。卒業後は、専門調査員という肩書きで赴任したサンフランシスコ日本国総領事館で、日本政府が実施する日米交流プログラムや国費留学事業に携わることとなり、三年間の実務経験を経て外務省に入省しました。

以降、本省(東京霞が関)や外務省研修所(神奈川県相模原市)の他、ダッカ(バングラデシュ)にある日本国大使館、アトランタ(米国)、カルガリー(カナダ)の日本国総領事館にそれぞれ勤務し、アトランタとカルガリーには、単身で男児二人を帯同するなど、海外における育児と仕事の掛け持ち業も経験しました。

平成二十八年、再び外務本省に戻り、現在は大臣官房人物交流室という部署で主にオリンピック・パラリンピックに伴う総務を担当しています。

この交流では、外務省員としての見解ではなく、一個人としてのメッセージを伝えさせていただきますね。

倉田 ゆきみ

「アナウンサーなんて、若くて可愛い人が三十歳くらいまでのもの」

皆さんの中にはそんな風にアナウンサーというものを捉えている人がいるかもしれません。

でも、私が働いているMBS(TBSの系列)では、そんなことはないのです。

MBSの女性アナウンサーは、結婚して出産してもまた職場に戻ってくる人がほとんどです。

テレビの番組があり、そしてラジオ番組もある。これをラ・テ兼営局というのですが、だからこそ仕事がメチャクチャたくさんある!

私も中一と小三の二人の男の子を育てながらアナウンサーを続けています。

アナウンサーでなくても、放送局に興味がある人もいます。私で答えられることならなんでも答えますので、皆さんからの質問、お待ちしておりますね。

華やかに見える放送業界ですが、大変なこともたくさんありますから!

それでは今回はこの辺で。

武川 智美

Takuji Yasuda



私は昭和六十二年に一高を卒業して、ちょうど五十歳になる安出卓司といいます。きっと、皆さんのお父さん世代でしょうか。私は医師として少し変わった経歴なので、あまり参考になりませんが、宜しかったら読んでみて下さい。

私は、諏訪湖畔にある諏訪赤十字病院の、神経内科および脳卒中センターで働いています。神経内科は、精神科と混同されることが多いのですが、神経の内科であり、最近は脳神経内科とも呼ばれ

ています。診療範囲は、脳梗塞や脳出血などの脳卒中、認知症、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病などの神経難病、末梢神経障害、てんかんなど多岐に及びます。

さて、私はどうして医師になろうと思ったのでしょうか？

高校の頃は、医療にも興味がなく、落ちこぼれてました。高三の夏頃から勉強を開始して、国立大学の工学部では日本最北端の北見工業大学に入学しました。

大学四年生になると、上下水道研究室に入り、学ぶことの面白さに気付きました。浄水場で水道水を作るときに、砂でろ過する過程があるのですが、私の担当は、その砂粒を電子顕微鏡で観察する事でした。研究し始めると、大学四年の一年間では足りず、大学院の修士課程に進学しました。

その当時の電子顕微鏡に関する研究報告は医学系に関連するものが多く、医学系文献に掲載されている素晴らしい電子顕微鏡の写真を眺めながら、徐々に医学系の研究をしたいと考えていました。とうとう、修士課程の二年生のときに、研究するなら医師免許を取得して、医学系の研究職につきたいと考えて、医学部を受験しました。

医学部受験は想像以上に難しく、浪人もしましたが、またしても国立大学の医学部では日本最北端の旭川医科大へ入学しました。未解明の領域が多い脳神経の分野はとても魅力的で、在学中に父が脳梗塞になったのを契機に、研究職ではなく脳卒中診療を行う神経内科医を選択して、現在に至っています。

私の経歴は、こんな感じですが、在校生の皆様からコメントをお待ちしています。

安出 卓司

Tamami Mukawa



甲府一高のみなさん、元気に楽しく学校生活を送っていますか？

私は昭和六十二年に一高を卒業しました、武川智美といいます。皆さんのお母さんくらいの歳になってしまいましたが、もう三十年以上も前のことになる一高時代を思い出しながら皆さんと交歓できたら、と思っています。

大学は東京の立教大学に行き、就職で関西に引っ越しました。友だちも親戚も、知り合いなど一人もいない関西によく飛び込めたな、と今になって思います。

なぜ、縁もゆかりもない関西に行くことができたのか。

それは、アナウンサーとして働きたかったからなのです。もちろん東京の放送局だったらもっと良かったのですが、残念ながら東京では内定をもらうことができず、関西へ・・・。

今は大阪にある、MBS(毎日放送)でアナウンサーとして働いています。

日々、テレビやラジオでニュースを伝え、タレントさんと番組をし、後輩の指導や育成まで。しかも週に一日、大学で非常勤講師としてメディア論を教えるという毎日です。

私がお答えします！

先輩！いろいろ教えてください。



ここからは、一高生のみなさんにも登場してもらいます。

Yukimi Kurata



外国の方とお話しをするための上達法を教えてください。

倉田

北米人と日本人の会話スタイルは、テニス対ボウリングに例えられることがあります。北米の対話は、サーブで打ち込まれた球が往来する、つまり、一人が掲げた話題に対し、相手は自らの考えを述べ、話題提供者はさらに自分の考えを返すというスタイルであるのに対し、日本のそれは、ボウリングレーンに投げ込まれた球の行方を皆で見守る、つまり、一人が掲げた話題に関し相手が感想を述べるというものです。このように、北米では、たとえば反対意見であろうと話題が逸れようと、自分自身の考えを論理的に返すことが会話を維持する秘訣ととらえられていますので参考にしてみてください。



現在の高校生に留学を薦めるとしたら、どんな点を薦めてくださいますか。

倉田

“Step out of your comfort zone”という表現がありますが、感受性の強い時期にある皆さんが、居心地のよい環境からあえて離れ、日本にいたら遭遇し得なかった困難や苦労を経験することは、人間として成長できる絶好のチャンスとなります。

また、「視野が広がる」とよく言いますが、私はこれを価値観や思考が国境を越えることと解しており、言葉や文化の異なる人達と喜怒哀楽を分かち合ったり、外国語でのコミュニケーション力を高めたりする経験は、物事の見方を変え、自信の獲得にもつながります。米国留学以降、私にとってアメリカは外国ではなく第二の故郷となっています。



外務省の仕事の魅力を教えてください。

倉田

なんと言っても、在外公館という海外の第一線で、外国生活を体験しながら対日理解の促進に関われることだと思います。業務が時事に連動していることも面白みの一つです。また、様々な国で仕事や余暇を通じ、生涯を通して交流し励まし合える友人にも出会えます。



これまでをふりかえり、何か後悔していることはありますか。

倉田

私は、“やらずに後悔するよりやって後悔した方がいい”と思うタイプですので、「あの時これをやっておけば良かった」と後悔することはほとんどありません。一方、行動を起こしたものの思い描いたとおりに行かなかった経験はありますが、振り返って見ると、それらは全て自分の糧になっており、今の自分に行き着くための必要不可欠な道だったと思っています。



進路選択へのアドバイスをください。

倉田

まずは、興味のあること、自分がワクワクできることを追求するのが第一歩だと思います。どんなに小さなことでも構わないので、それをとことんやってみる、これについては周囲の誰よりも知っている、といういわば「プロ意識」で取り組んでみてください。皆さんの中には、早いうちから特定の職業を目指す人もいれば、将来進むべき道がわからない人もいるでしょう。私は後者でした。しかしながら、目の前の好きなことに懸命に取り組んできた結果、良い出会いに恵まれたり、先人のアドバイスを得たりしながら現在の道に導かれるに至りました。ですから、周りと比較して不安にならなくてもいい。私は導かれる人生というのもあっていいと思っています。

私がお答えします!



Takuji Yasude



医師になって良かったこと、逆に辛かったことは何ですか。

安出

とても本質的な質問をいただきました。私は勤務医なので、看護師やリハビリスタッフなど多くの職種と医療チームを組織しています。その医療チームで、患者様やご家族に対して肉体的な病気だけではなく、不安や悩みなどの精神的なケアもしていきます。このような人生にとっての最重要事項に関わる仕事に強いやりがいを感じています。そして、患者様やご家族から感謝いただいたときに、医師になって良かったと心から思います。しかし、現在の私の勤務環境では、当直は月に六回を超えています。医師の当直とは、朝七時からの通常勤務後に、当直入りして、当直明けも夜七時頃まで通常勤務をします。約三十六時間連続勤務となります。今、話題の働き方改革でも医師は例外となっており、肉体的には厳しい労働環境は不変です。実際には、やりがいと厳しい労働環境のバランスが難しいのが、医師の現状です。



研究することの楽しさを教えてください。

安出

とても難しい質問もいただきました。結論から申し上げますと、私は研究することが「楽しい」と思える境地に至ることが出来ませんでした。皆様へのメッセージに「～研究室に入り、学ぶことの面白さに気がきました」と記載しているので、「研究することが楽しい」との誤解を与えてしまったかもしれません。申し訳ありませんでした。「学ぶ」とは知識を自らに吸収することであり、「研究」とは物事を学問的に深く考え、調べ、明らかにすることです。つまり、学ぶとは自己満足でも良いのですが、研究にはノイエス（新規性）と言われる新しく何らかの発見をする事が求められるのです。例えるなら、真っ暗闇の洞窟を手探りで、出口を探すような感じです。すぐに見つかることもあるかもしれませんが、多くはいつまでも見つからず、出口かと思った微かな光も穴が小さすぎて出口にはなり得ないのです。そういう訳で、私は研究を楽しいと思う事が出来る人を、羨ましく思い、そして尊敬している次第です。



浪人してでも医師になりたかったのはどうしてですか。

安出

これも難しい質問ですが、逆に私からすると、どうして、浪人することが嫌で医師やその他の将来の夢を諦めるのでしょうか？と感じてしまいます。私は、工学部の大学院を卒業してから、医学部入試で浪人してしまい、厳しいプレッシャーの中で猛勉強しました。その時の体験はとても貴重であり、人生の大切な財産となっています。ちなみに、私の母校である旭川医科大は国立大学で地方にあり、学費・生活費など経済的負担が少ないので、私以外にも「既卒」と呼ばれる他大学を卒業してから医学部に再受験した医学生が多くいました。私の学年では、約二割弱が既卒でした。他大学を卒業してからでも医師への夢を捨てきれず、再受験するパターンもあるので、浪人なんて人生の中ではごく短期間なので、初志貫徹は大切なのではないのでしょうか。



これまでをふりかえり、何か後悔していることはありますか。

安出

非常に厳しく大切な質問もいただきました。先程の回答とも重複しますが、「高校生の時にもっと勉強しておけば良かった」と強く後悔しています。私の高校時代は、勉強含め何をしたらいいか目標が定まらず、思春期特有なのではないでしょうか、エネルギーだけが暴発するような感じでした。私が高校時代にタイムスリップしたら、勉強しなくとも思います。しかし、それは五十歳のおじさんだからこそ、勉強することの大切さを感じることが出来るのだと思います。もし、私が高校生の皆様に「勉強することの大切さ」を上手に伝えることが出来るなら、素敵な高校教師になれるかもしれませんね。しかし、それはとても難しく、多くの先生方が試みていることですが、達成は困難です。このテーマはとても重要であり、この紙上討論のメインテーマな感じがします。

私がお答えします!



Tomomi Mukawa



アナウンサーへの道を志したのはいつぐらいからですか。

武川

大学二年生のときでした。二歳下に妹がいるのですが、短大生だったので私より早く就職活動をしていました。紺やグレーのリクルートスーツに身を包み会社説明会に行く妹を見て、“歯車”にはなりたくない。もっと私にしかできない仕事をしたいって思ったんです。当時、アナウンサー試験の要項には「あなたらしい服装で来てください」とありました。私自身を見てくれる! その一行に惹かれ、アナウンサーを志すことに。それまでは、大学で日本古代史を専攻していたので、大学に残って考古学者になろうと思っていました。



滑舌は昔から良かった方でしたか。また、特別にトレーニングをつまれましたか。

武川

小さいころからおしゃべりで、滑舌も良く、音読も好きでした。学芸会では役をもらうよりト書きを読む方が好きで、いつもナレーション担当でした。アナウンサーとして入社後、半年間、みっちりプロのアナウンサーとしての研修があります。そこで基礎を学びました。



東京で内定がもらえなかったとき、関西へ行くことにすぐ気持ちを切り替えられたのはどうしてですか。

武川

アナウンサーの倍率ってやっぱりすごいんです。何千人が受けて内定をもらえるのは一人か二人。あまり小さな地方局だと番組の自社制作率も落ちてしまい面白くないかもしれないけれど、関西は東京キー局と比べても遜色がなかったので、アナウンサーとしてやっていくのは大阪まで。大阪でもなれなかったら、諦めていたと思います。大阪への切り替えは、やっぱりどうしてもアナウンサーになりたかったからです。



これまでをふりかえり、何か後悔していることはありますか。

武川

「やらない後悔はしない」と決めて生きてきたので、基本的に後悔はありません。大学時代にもっとまじめに勉強しておけば良かったとはちょっとと思いますが。



進路選択へのアドバイスをください。

武川

私には息子が二人いますが、「自分がトコトン好きだと思うことを見つけ、それを全うしなさい」と言っています。どこに就職するかではありません。何がやりたくてその職業に就くか、です。好きなことなら大抵のことは乗り越えられます。そのためにも、今は視野を広げ、いろんなことを経験してください。

特集

誌上交流「夢と向き合う」

甲府一高一年生 × 昭和六十二年卒

第139周年 甲府中学・甲府一高同窓会記念誌

質問にお答えいただき、ありがとうございました。



メッセンジャーからのアドバイスを受け、一年生のみなさんから感想が届きました。自分の夢と真摯に向き合っている姿が伝わってきました。それでは、その一部を紹介します。

私の心が大きく変化しました。

外国の人との会話を、テニス対ボウリングと例えていて非常に面白いと思いました。日本の人はなかなか自分が思っていたとしても口にさせないときの方が多いです。これからは、日本にも東京オリンピックで外国からたくさん観光客の人が訪れます。この貴重な機会をのがさずにいろいろな国の人と会話をし、考えていることの違いなどを理解することによって自分の考え方を豊かにできると思うので英語を上達させたいと思いました。

一組 大柴 啓輔

語学習得は、やはりその生活環境に身を置くことが近道だということに改めて理解しました。そして、同時に母国語の大切さも改めて実感しました。確かに日本人は自分の意見をあまり言わず相手に合わせようとすることが多々あると思います。外務省で働くことは、人とのコミュニケーションが一番だということも学びました。コミュニケーションは誰にとっても大事なことで、自分も磨いていこうと思いました。自分も相手の意見にのるだけではなく、しっかりと自分の意見をもっていこうと思いました。

二組 雨宮 脩斗

三人の先輩方の「やらずに後悔するよりやって後悔する方が良い」という考え方にとても感銘を受けました。また、将来のことがモヤモヤとしている自分にとって周りが夢に向かって一生懸命努力している姿に、正直、不安と焦りがありました。しかし、先輩方が、「まだまだこれから。」と言ってくださるのが、とても心強かったです。そして、自分で自分をコントロールすることも、ものすごく重要だと感じました。今の自分を変えさせてくれる魔法の言葉を沢山ありがとうございました。

五組 石原 湧

私の将来の夢は、外交官になり、世界の平和のために尽くすことです。小学四年生の時に杉原千畝さんの伝記を読み、彼に憧れて外交官になりたいと思い始めました。外交官になるためには、語学力やコミュニケーション能力など、まだまだ足りないものが多すぎる私ですが、この度の先輩からの助言を糧にして憧れの夢に向かってこれからも努力していこうと考えています。

六組 高野 洸暉

挑戦し続けていきたいと忘れない。

私は進路について悩んでいました。父には「好きなことをやれ」と言われていたので、自分のやりたいことをやろうと思っている反面、それに挑戦するのが少し不安で、なかなか結論を出せずにいました。倉田さんの返信の最後には「自分がワクワクできることを追求するのが第一歩」と書いてありました。この一文を読んで改めて自分のしたいことは何だろうと考えました。やりたくないことをずっとやっていても楽しくない。だったら、自分が本当にやりたいことをやってみようと思います。

一組 稲毛 千夏

私と意見を交換していただいた倉田ゆきみさんは、とてもすごい方なのだと肌で感じました。それはただすごいのではなく、努力の天才でもある方ということです。「やらずに後悔するよりやって後悔した方が良い」という言葉を私は、すばらしいと思いました。倉田さんは後悔しても、まずやってみるという強い気持ちを持っています。私もそのような強い気持ちを持ってこれから挑戦し続けていきたいと思っています。

七組 山下 勇樹

私が小さい頃から描いていた「夢」は、外交官になり世界で活躍することでした。英語を話すことが好き、外国の文化に触れることが好き。外交官について多くを知らなかった私は、この思いだけで将来就きたい仕事としていました。しかし今、私の胸には「迷い」と「諦め」が湧き上がっています。「この仕事はただ好きだからできるような簡単なものじゃない。後悔する前に、もっと現実的な夢に変えるべきじゃないのか。」と何度か自分に問いかけたこともあります。そんな私にとって今回の交流は、進路選択に役に立つ良い機会だと思いました。

七組 遠藤美湖

私自身、外交官という職業に就きたいと思っています。その一方で、語学力について不安な部分が多々あります。三月にオーストラリア研修に参加をしました。留学をして自分自身を成長させられたと思います。初めての人と話すのが苦手な自分から、帰国時は、積極的に話せる人に変化して帰ってくることでできました。今回、このような貴重な体験のおかげで、私の心が大きく変化しました。

六組 横澤拓海

いろいろな質問に答えてくださりありがとうございました。心のこもった回答で心に残りました。以前までは浪人しないように現役で行けるところにいたいと思っていた。しかし、自分の夢があるのにそこで諦めるのは、なんて人生を無駄にしているんだと思うことができませんでした。人生一度きりなので大人になったとき後悔しないように自分の夢を叶えるために逃げずに勉強していききたいです。

四組 野中華鈴

私は小学四年生の頃から、ずっとドラマや実際に私が出会った医師や看護師に憧れ、今は看護師になりたいと強く思っています。患者さんの体を病氣から回復させたり、心の悩みも解決したりして、患者さんや家族から感謝される仕事と聞くと、本当にいい職業で、やりがいがありそうです。でも憧れますが、連続三十六時間勤務と聞いて驚きました。それと同時に、勤務の大変さや責任の大きさなどを感じました。より一層、看護師になって患者さんの一番近くで、心身両方をサポートできる立派な仕事をしたいと思いました。

四組 小串 優

今まで私は浪人によいイメージがありませんでした。浪人することで自分と同じ年の人が先輩になったり、年下の人と同じ学年になったりして、劣等感を抱いてしまうのではないかと思っていました。しかし、「浪人するのが嫌で将来の夢を諦めるのでしょうか」安出先輩のこの言葉が胸に刺さりました。確かに浪人しても将来の夢は諦めたくないです。だから、二年後に後悔しないよう努力し続けたいです。私は「勉強することの大切さ」ということは伝えてもらうのではなく、自分で学ぶものなのではないかと思っています。中学生の時は将来の夢がなく、どこの高校に行きたいという気持ちもありませんでした。そんな中、入試本番を迎え、散々な結果となってしまいました。自宅で解答速報を見ながら悔しくて泣いたことを今でも鮮明に覚えています。私はこの経験（挫折）から「大切さ」を学びました。

一組 末武輝己

三人の卒業生の返答を読み、「これだ!」という目標は高校時代には持っていなかったが、自分のやるべきと思ったことは一心に努力されてきたのだという印象を持ちました。私は中学時代から教師になりたいという夢を掲げています。ただ、一概にこの仕事が良い、この仕事が悪いなどと決めつけられないとは思いますが、どれだけ光栄で大切な仕事でも自らの良さと熱意を仕事に向けてない人には尊敬という思いは生まれません。思いました。

五組 中野朝陽

「経験者は語る。」と言いますが、先輩方の言葉には重みがあり、今の私たちにはとても響いてくる気がします。先輩方三人が三人とも書いた「もっと勉強しておけばよかった。」という忠告ともいえる後悔から、勉強に励まなければならぬのだと実感しました。しかし、その先には叶えたい夢だったりやり甲斐のある仕事だったり、楽しいことばかりではないと思います。が、人生をより豊かに充実させることができるのかも知れない、という一縷の目的が見えたアドバイスもありました。

三組 飯野理奈子

魔法の言葉を
沢山ありがとうございました。

「自分の好きなものって結局なんなのだろう」武川さんの回答を拝見して思ったり、「好きだと思うこと」「何がやりたくてその職業に就くか」などの言葉が僕自身に響きました。僕にとって「好きなこと」というものは「得意なもの」と一致しています。しかし、何をやって得意とするかが僕は分かっています。周りの人よりできるくらいか、実績を残せるくらいかなど加減が分からず、自信にもつながっていないのです。今はまだ見つからないものが多いですが、何もしないのも余計行き詰まるだけ。「やらない後悔はしない」という言葉を胸に、日々模索していきたいです。

三組 堀内省吾

「夢と向き合う」ために

三ヶ月間に及ぶやりとりも、いよいよ最後となりました。

今回の誌上交流により、後輩たちが抱いている夢を少しでも現実近づけてあげたいと考えています。

それでは最後に、一高生のみなさんに、メッセージをお願いします。

message 安出 卓司

多くの在校生の皆様からお返事をいただき、とても感慨深く拝読させていただきました。本当にありがとうございました。

これから、「なぜ勉強が大切か?」という、少し面倒くさい話をします。

ずばり、私からの皆様へ最後のメッセージは「旬を大切に生きて下さい」という事です。

私の考える「高校生の旬」は、やはり、勉強だと思います。なぜ「勉強が旬」なのでしょう?今回は、生物学的な観点と、忍耐力の指標という視点からお話します。

まず、生物学的な観点からです。当たり前ですが、若いほど記憶・学習力が優れています。脳神経細胞は生まれてから増えることはなく、毎日約十万個のペースで神経細胞が脱落し、減り続けていきます。体の殆どの細胞は、細胞分裂をして増殖・修復することが出来ます。例えば、膝を擦りむいても、一週間後には治っていますね。しかし、脳や脊髄の神経細胞と心臓の筋肉だけは、細胞分裂をして増えることは出来ないのです。どうして、脳神経細胞は減るだけで増えないのでしょうか?記憶や思考とは、神経細胞間のネットワークであるシナプスという回路によって成立しています。もし、神経細胞が増えてしまったら、神経細胞間のネットワークが混線してしまい、今までの記憶が変わってしまうのです。ですから、記憶が混乱するより、脳神経細胞とネットワークが減って、いわゆる「忘れる」ことの方がまだマシなのです。

減り続ける神経細胞に対して、神経細胞間のネットワークであるシナプスという回路は、生まれてからグングン成長します。しかし、四歳ごろをピークに十代後半で成長は殆ど止まってしまいます。興味深い事に、脳神経細胞の成長でも「旬」が異なっています。成長が止まる順番は、視覚→聴覚→体の感覚→運動能力→言語→判断力なのです。このように回路の形成・成長が行われると同時に、必要の無い回路の刈り込みも激しく行われます。一年に0.7%の割合で回路が減少し、二十代始めには刈り込みが終了します。みなさんの年齢だと、言語と判断力の成長が終了すると同時に、使わない回路は激しく刈り込まれている時期なのです。ですから、一刻も早く勉強しておくべきなのです!

次に忍耐力の指標という視点から、「勉強」についてお話しします。勉強という言葉ですが、「勉める」とは無理に力を出して励む事であり、この勉めを、「強いる」行動が「勉強」という意味なのです。つまり、勉強とは、上記のように、元々は、気が進まないことを仕方なくするという意味だったようです。言い換えると、「勉強」とは「忍耐力の指標」なのです。

将来、みなさんが社会人として働くときには、何が求められるでしょう?社会人としてお金を稼ぐ、つまり報酬をもらうようになると、我慢してする仕事が殆どです。そのために、集団社会では我慢して仕事をやり抜く能力、つまり忍耐力が求められます。

「忍耐力の指標」となる学力は、どの時点の学力なのでしょう?もうお分かりだと思いますが、受験者の試験範囲がほぼ同一である「大学入試の学力が忍耐力の指標」として利用されているのです。大学以降に学ぶ内容は、各大学・各学部で異なり、細分化された多様で実用的な知識であり、忍耐力の指標にはなり得ないのです。ですから、大学入試直前の高校時代にする勉強は最も効率的なのです。

まとめると、コストパフォーマンス最強の勉強時期は、高校時代なので、私の考える「高校生の旬」は、

やはり勉強だと思います。でも、高校時代は楽しい事が沢山ありますね（笑）。皆さんの考える「高校生の旬」はなんですか？

最後に、高校時代はとても素敵な時期ですが、あまりにも短すぎます。ですから、今しかできない「旬」について、考えてみて下さい。そして、高校時代だけでなく、長い人生でも「旬を大切に生きて下さい」!!

それでは、皆様の高校時代が、素敵な思い出になりますようにお祈り申し上げます。

message 倉田 ゆきみ

この度は誠意あふれるフィードバックをどうもありがとう。皆さんが自分の将来と真摯に向き合っている様子に感銘を受けました。

最後に三点お伝えします。

- 一 海外留学に関心のある皆さん、国際的な職業を目指している皆さんは、今後、日本とは異なる様々な常識や価値観に触れる場面に多々遭遇することでしょう。その中で自分を見失うことなく協調していくためには、自らの価値観をしっかりと持つことが大切です。価値観の形成には様々な経験の積み重ねが不可欠ですので、知的好奇心を満たせそうな事柄には臆せず挑戦し、実体験に基づいた価値観を養ってください。
- 二 また、何かに挑戦する際、時間やお金の無駄になってしまったら・・・とか、失敗したら・・・などと不安になることがあるかもしれません。しかしながら、全力投球の結果、これは自分に合わないと思ったとしても、それは失敗や無駄なのではなくラッキーなのです。何に向かないのかが判れば、その分、その後の選択肢が絞られるわけですから、将来の道に近づいたとも言えます。
- 三 さらに、皆さんと関わりの深い人生の先輩たちの声にも耳を傾けてみましょう。私自身、振り返ってみると、例えば親の言葉を煩わしく感じ、反発することもあった反面、自分が親となった現在、当時言われたことをそのまま子供に言っている自分に気付くことがあります。また、先輩からのアドバイスを後年身を持って体感することもありました。つまり、先人の言葉には経験に裏打ちされた重みがあるのです。今回私達がやりとりしたように、今度は皆さんの周りにいらっしゃる年長のご家族や先生に、「今の職業を選んだ理由は?」「高校生としてやっておくべきことは?」と問い掛けてみましょう。人生の選択をする上できっと参考になると思いますよ。

message 武川 智美

一高の後輩のみなさま

悩める青春だなど、懐かしく一高時代を思い出しています。

数学者の新井紀子氏の著書に「AI vs 教科書が読めない子どもたち」というのがあります。新聞などでも取り上げられたので読んだ人もいるかもしれませんね。新井氏は「読解力の向上こそが、AIに駆逐されず人生を切り抜けるカギ」だと書いています。発言や文章の意味を理解したり、常識から類推したりすることがAIは苦手。だからこそ物事の真意を理解し、考えたことを相手にきちんと伝えられる人が、これから必要になっていくのです。

流されず自分の頭で考えてください。

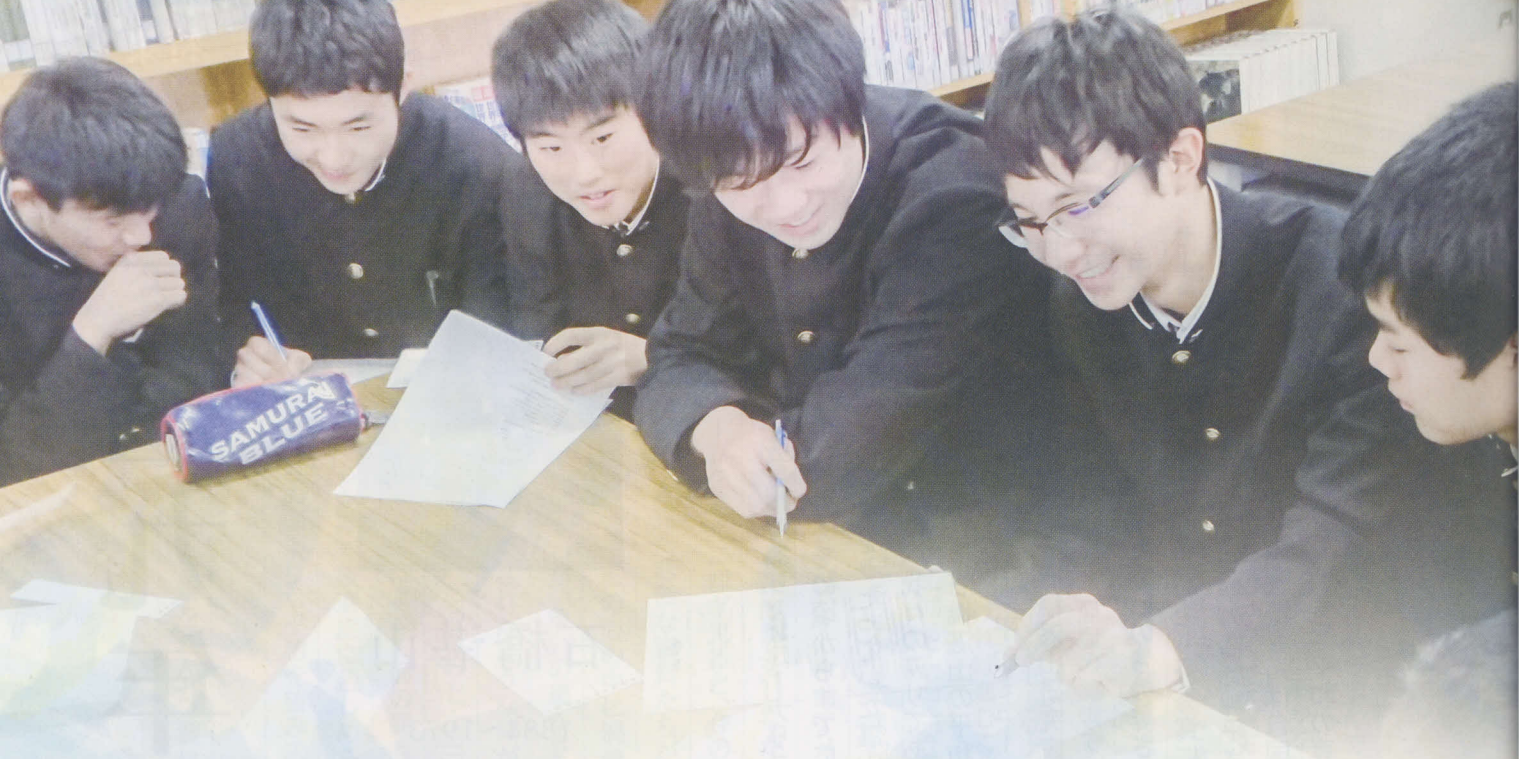
考えて判断した自分の意見を、今度は周りに正確に伝えられるようになってください。

判断ができるようになるだけの経験をたくさん積んであなただけの強みを見つけてください。

どこに行くかではなく、そこで何をするかです。

今ある職業の半分近くがなくなりAIに取って代わられるのではないか、といわれる近い未来。人間らしく夢を見つけ、与えられたことだけでなく、自らの可能性を広げるのです。

AIには絶対できない「何か」をきっと見つけてください。心から応援しています。



みなさん、現役一高生と卒業生による
誌上交流はいかがだったでしょうか。

「夢と向き合う」ことで生まれた

一体感と心地よさ。

お返事を心待ちにしながら、

先輩後輩の関係を越えた交流ができました。

これからも、ともに人生を歩む同窓生として、

励まし合い支え合いながら

いつまでも「夢と向き合う」自分を

大切にしていてほしいと思います。

ご協力ありがとうございました。

1 特集

誌上交流「夢と向き合う」

甲府一高一年生 × 昭和六十二年卒

一三九年の伝統

脈々と受け継がれる
平和主義・自由主義のDNA



石橋 湛山

1884～1973

石橋湛山の精神に触れ、現代の若者は何を感じ、何を学ぶのか

第7回 石橋湛山平和賞 最優秀作品

受賞作

「私たちに託された未来」

甲陵中学校三年 幡野 純平

山梨県出身の元首相であり、ジャーナリスト、そして思想家である石橋湛山。甲府中学に学び、その頃からすでに「校友会雑誌」で世相を論じ、自由民権や平和主義をうたっていた湛山。湛山という偉大な人物が甲府一高出身であることは、我々の誇りである。

「石橋湛山平和賞」とは、石橋湛山の平和主義思想を後世に伝えるために創設されたもので、「山梨平和ミュージアム―石橋湛山記念館」(理事長・元甲府一高教諭 石橋湛山研究家 浅川保氏)が主催し、今年で第7回を数える。

中高生の部は、湛山や平和・いのちの尊さなどをテーマに、論文やエッセー338点が集まった。一高生も優秀賞に一名、佳作に一名、計二名入賞と善戦する中で、甲陵中三年の幡野純平さんの「私たちに託された未来」が最優秀賞に選ばれた。幡野さんは自国優先的な考え方が台頭する世界の流れに警鐘を鳴らしながら、平和の尊さをつづった。

私が生まれた年は、政府がイラク戦争において現地への陸上自衛隊の派遣を決定し、戦闘地域ではないかとの論議のあるイラクのサマウワに向かつて現実に出発した年だ。両親は、私の命名に際し「この子が大きくなる頃には、世界中に争いがなくなつて平和な世の中となつてほしい。それを願う子に育つてほしい。」との思いで名付けてくれた。古風な名前だと思っていたが、その意味を聞いてから、私は結構気に入っている。

今、世の中は果たして平和に向かって歩んでいるのだろうか。日本は、私も含め日本人々は、あの忌まわしい戦争を忘れてはいないだろうか。

昨年の秋、私は大学生の兄と二人で広島を訪れた。広島平和記念資料館で様々な展示を見た。教科書や資料集で学び知っていたはずなのに、現物の焼け朽ちた制服や黒焦げの弁当箱などを目の当たりにすると、驚き以上に怖さを感じた。また、原爆の熱戦で全身の皮膚が焼けただれ炎の中をさまよい歩く人形や、戦後の広島の街や人々の写真は、目をそむけたくなるのを必死に堪えなければ進むことができない程の衝撃だった。実際、私はじつくりと見て回ることに恐怖が芽生え、動悸が速くなっているような息苦しさに、兄をせかしてまわった。それから、佐々木禎子さんの折鶴とその経緯を学び、オバマ前アメリカ大統領が贈った折鶴を見学した。外に出て大きく深呼吸をしながら、資料館に行く前に立ち寄った原爆ドームを遠くに仰ぎ見ると、今のこの穏やかな現実が信じられないような、さつき見た悲惨な資料たちが嘘だったのではないかというような、不思議な感情が私の心の中に渦巻いていた。それでも確かにあの生々しい写真が、手記が、争いの愚かさや命の尊さをはつきりと私に語ってくれた。未来を託されたような気がした。こんなにも活気に満ちた広島で、あんな悲劇が、たったの七十三年前にあったなんて信じられないと思った。原爆投下によって何の罪もない人々があつという間に焼き殺され、何年もかけて後遺症に苦しめられてきた広島・長崎の歴史を思えば、日本はどの国よりも平和を望み求める国でなければならないと強く思った。

石橋湛山氏を紹介した書籍を読んだ。彼は、戦争へ突き進む政府に警

鐘を鳴らすような批評を東洋経済新報社に掲載し続けた。言論を取り締まる厳しい時代にあつて、とても勇気のあることだった。世論の流れで途中からはそれもできなくなったが、彼は事の成り行き、真実を見極める眼を持っていた。狭い日本の中だけを見つめるのではなく、大きな視野で世界の中の日本という立場で物事を見渡していた。信念を貫き通す力強さも秘めていた。彼のすばらしいと思うことの一つに、世界に通用する愛国主義の理念「日本の国益を大切に以上、相手の国益も同じように大切にする。その中に両国ともに国益が得られる」と本来あるべき国民主権「人が国家を形づくり国民として団結するのは、人類として、個人として人間として生きるためである。決して国民として生きるためでも何でもない。」との考え方にあると思う。この思想が、あの軍国主義の時代にもっと評価され広まっていたならば、日本は大戦参戦へと突き進むことは決してなかっただろう。

今でも、世界中で紛争は起きている。国同士の争いや宗教間での争い。テロなど、様々なかたちで命を落とす人が存在している。どの国もどんな人も幸せに暮らしたいと願い平和を求めているはずなのに、どうして争いは無くならないのだろうか。ある大国の大統領が堂々と自国の経済・安定のみを声高に叫んでいる。他国もそれを言い出したら世界はどうなってしまうのか、誰しも不安に思っている。自分さえ自国さえ良ければという考え方は間違っているはずなのに、目先のことにとらわれてしまふほど余裕がない国になってしまっているのだろうか。大国であるがゆえにわがままがまかり通ると思っているのだろうか。また、核を放棄すると言っては経済支援を引き出し、すぐに実験等を繰り返す隣国があ

る。そして日本はもちろん太平洋にさえ届いてしまうロケットという名の爆弾をとうとう完成させた。平和な世の中はずいぶん遠くにいつてしまったようにさえ思ってしまう。

中学生である私が、平和を願ってできることはあるだろうか。あまりにも穏やかな生活に慣れてしまい、平和という言葉にどう反応しているのか戸惑っている自分に頼りなさを感じてしまう。しかし、生きたくても生きられなかったあの時代の同世代の友を思うと、もっと賢くもっとたくましくもっと優しくならなければと誓いに似た気持ちになる。そのため、今は多くのことを学ぼうと思う。五年前に国連本部でスピーチしたマララ・ユスフザイさんの一文を思い出す。「エデュケーション・ファースト(教育を第一に)」学校でしっかりと基本を学び土台を作り、そのうえで様々な分野の情報を取り入れて自身を築いていこうと思う。これからの時代を生き抜く私たちにとって、インターネットの普及により世界が身近になっていると思う。世界中のいろいろな出来事・事件・話題を簡単に知ることができる。それが本当なのか嘘なのか、真実であるのかを、きちんと判断できる力を身につけなければならない。騙されない賢さが大事だ。平和への第一歩は学びでもあると思う。もう一つ私にできることがある。それは、あの広島で学んだこと感じたことを決して忘れないことだ。苦しんだ人々の叫びを確かに受け止めたのだ。戦争を過去のものとして風化させてはならない。未来を平和な世界にするのは私たちの世代だと思う。一人一人が命を大切にしながら、お互いに思いやりをもって生きていく。必ず幸せな世界にすると心に決めて、自分らしく歩んでいきたい。

インタビュー 温故知新

平成30年12月23日の表彰式にて、幡野さんに、石橋湛山の精神に触れて感じたこと、考えたことなどを伺った。

幡野さんは、涼しげな眼もとの、穏やかそうな中学生。物静かな中に、しっかりと強い意志を秘めた印象。好きな教科は数学。部活はバスケットボール部。文章を書くことについては、没頭したらあっという間に書き上げるタイプだという。



幡野純平さん

表彰式



受賞の記念スピーチ

受賞のお気持ちを聞かせてください。

たくさんの作品の中から選んでいただいて、
光栄です。

この賞に応募しようと思ったのは
なぜですか？

自分の中で戦争に対する思いが（広島訪問から日を経るにつれて）だんだん薄れてきたため、もう一度自分の中でしっかり戦争の悲惨さと平和への願いを考えたくて応募しました。

この論文を書く上で、
苦労した点は何ですか？

石橋湛山について、それまで知識がなかった
ので、石橋湛山と自分の経験を関連付けて書く
ことに苦労しました。

石橋湛山について、
どんな印象を持ちましたか？

石橋湛山について調べていく中で、「平和主義」という自分の考えが全く世の中の流れと違っていても、自分の信念をしっかりと持ってそれを貫き通したところがすごいし、尊敬できるところだと思いました。自分は、他の人に流される感じがありますが、自分が正しいと思ったことは、しっかりと責任を持つことが大切なのだと思います。もしも石橋湛山に会えたとしたら、自分の考えや自分の意思を貫く、モチベーションを保つ方法を聞いてみたいです。

広島平和記念資料館で学ばれたことは
何ですか？

最初は普通に観光として、本当に軽い気持ちで「せっかくここまで来たんだから」という気持ちで入ったんですけど、実際に行ってみて、自分がただ資料を読んで学んでいたものとは全然違うものがそこにあって、強い衝撃を受けました。確かに見るのが辛いくらい悲惨なものが描かれていて、最初は恐怖を感じてしまいましたが、そういったものに目をそらしてはいけません。平和というものに近づくことはできない、平和に近づくにはそういうものにしっかり向き合っていくかなくてはならない、と今は思っています。広島を知って、二度と戦争を繰

り返してはならないという事を、強く自分の中で思いました。

今回の受賞をこれからの生活に
どのように生かしていきたいですか？

戦争について学び、それを未来へつなげていくことが、私たち若い世代に一番求められてい



受賞者



授賞式

石橋湛山平和賞表彰式



浅川保氏による記念講演

幡野さんにお話を伺い、このように若い世代が平和について真摯に考えていることに感謝し、とても嬉しく感じた。逆に我々大人世代が

は、日々の雑事に紛れて、今日日本がどこに向かっているのか、深く考えられているだろうか。この日本をどうしたいのか、自分にできることは何なのか。考え続けることを怠ってはならないと幡野さんから学び、背筋が伸びる思いがした。

今年二〇一九年は、石橋湛山生誕一三五年のメモリアルイヤーであり、甲府第一高等学校は創立一三九周年を迎える。これから次々と若い

世代が社会へと羽ばたいていく中、我々は若き彼らに、どんな未来をバトンタッチしていけるのか。一高の伝統である自由で自治を重んずる校風の下、育まれた主体性や社会性。そして石橋湛山から受け継がれる平和主義・自由主義のDNA。これらは私達一高生の血の中に脈々と流れている。我々は、石橋湛山を先輩に持つ者として恥ずかしくないように考え、生きていかなければならない。

甲府一高と私、そして、石橋湛山

山梨平和ミュージアム―石橋湛山記念館―

浅川 保

私が、社会科(日本史)の教員として、甲府一高に在職したのは、1980(昭和55)年4月から1991(平成3)年3月までの11年間、ちょうど、30代の後半から40代の後半にかけてで、70を過ぎた今思えば、教員として一番充実していた時期であった。

一高の生活で忘れがたいのは、1986(昭和61)年10月、百周年記念館2階の資料室で、一高OBの石橋湛山(1884〜1973)の中学時代の文章に出会った(発見したことである。1900〜1902(明治33〜35)年、甲府中学(甲府一高の前身)の3〜5年生だった湛山は、

当時の『校友会雑誌』に「石田三成論」「湛山随筆」など7つの文章を執筆した。それらの文章の、中学生離れした鋭い視点と確かな内容・主張に驚き、以後、湛山に傾倒、『石橋湛山全集』を買い求めて読み進めた。また、県内各地の湛山ゆかりの場所（富士川町の昌福寺、南アルプス市鏡中条の長遠寺等）を訪ね、資料を集めるなど、今日に至る、湛山との長いつきあいが始まった。

湛山は、一高出身で、大島正健校長（当時）の「Boys be Ambitious!」の薫陶を受け、ジャーナリスト・政治家として活躍した人物として知られているが、現在では、さらに評価が高まり、「20世紀日本の言論界・思想界を代表する稀有の人物」（鴨武彦元東大教授）「大正デモクラシーの頂点、日本国憲法の精神の先駆者」（松尾尊允京大名誉教授）とまで、評価されている。この間、各地で湛山について話をする機会が与えられ、また、自分なりにまとめたものを、1993（平成5）年には『若き日の石橋湛山』（近代文芸社）、2008（平成20）年には『偉大な言論人 石橋湛山』（山梨日日新聞社）として上梓した。

また、2007年5月には、甲府市朝気1丁目に、800人を超える有志のカンパ・浄財で、民立民営のNPO法人・山梨平和ミュージアム―石橋湛山記念館―が開館、以降、小生は理事長として、運営に関わっている。1階には、甲府空襲や甲府連隊の歴史など、戦争と平和に関わる展示、2階には、石橋湛山の生涯と思想が展示されており、全国唯一の石橋湛山記念館として、県内はもちろん、全国各地から多くの見学者が訪れている。

そして、平和ミュージアムでは、2012年、石橋湛山の業績を讃え、継承するために、全国に呼びかけて石橋湛山平和賞（一般の部、中高校生の部で論文・作文を募集・表彰）を創設、今年で7回目を迎えた。甲府一高並びにOB・OG諸氏のこれまでの多大な協力に感謝するとともに、今後の更なる協力をお願いし、拙文を閉じたい。

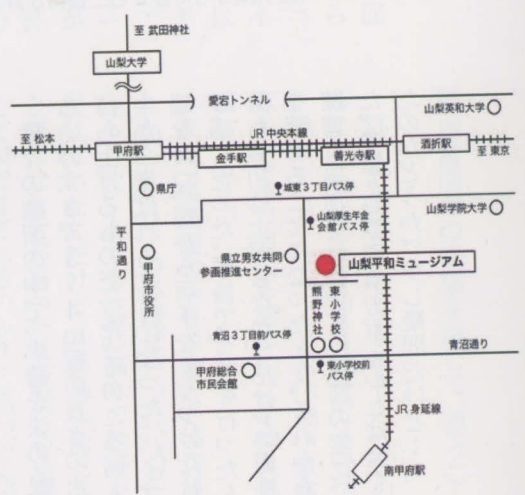


山梨に市民参加型の平和の港ができました。



理事長・元甲府一高教諭
石橋湛山研究家 浅川保氏

浅川保先生は、この「山梨平和ミュージアム」が一高生やOB・OG達のサロンようになって皆が集い、平和について語り合える場になればよい、と願いを話してください。



JR甲府駅より：

○山梨交通バス

No.17伊勢町営業所行（城東回り）にて、
山梨厚生年金会館バス停下車（乗車12分）100m南。
No.91山梨英和大学行またはNo.98石和温泉行にて、
城東3丁目下車 600m南

○タクシー：約10分、1,000円

JR身延線南甲府駅より：1300m北

車の場合

○甲府昭和ICより約15分、甲府総合市民会館の東北



後列向かって左から二番目が井上さん

■ 甲府一高に入学され、應援團に入るきっかけは何かあったのですか？

入学したてのころは、まだ何部に入るか全く考えていなかったかな。毎日、友達とたわいもない話をして過ごしていたように思う。そんなとき、屋上から熱い視線で俺たちのことを指さし、何かしゃべっている先輩が見えた。その先輩から「どうでえ、應援團に入らんけ？」と声をかけられたのがきっかけ。友達と一緒に屋上に連れていかれて、「何か部活入ってる？」と聞かれた。とっさに友達と「映画部に入ってます」と言ってみたものの、「兼部で良いから入れ」と言われ、入部することに……。今思えば、まさにバワハラだったような……。(笑)

甲府一高應援團のシンボル「団旗」。

甲府一高應援團において、その団旗に直接ふれる機会の多い旗手を務められた、昭和59年卒業の井上隆尚さんに団旗にかけるその思いをおうかがいすることができた。

■ そのような状況で入部されましたが、日々の練習はいかがでしたか？

次の日から「授業が終わり次第、毎日すぐに屋上に直行せよ。」一年生はジャージに着替え、一列に並び、手は腰に、直立不動の形で先輩方を待つことが、毎日の練習のはじめとなった。

屋上のコンクリートの上を裸足で走ったり、片足のみで行ったり来たり。終わりの見えない腕立て伏せ。空手の正拳突きなどの練習……。さらに応援歌の型の練習。型をやりながら、応援歌は出すことができる精一杯の声で叫ぶ。そんな練習の毎日だった。

■ 旗手(旗持)を務めることになったのは、何か理由があったのですか？

日々の練習の中で、旗持を決める審査みたいものがあった。それは、20㎝くらいの太さで3〜4m程の長さの水道管のような、さび付いた鉄のパイプを持ち上げるものだった。そのころ何人かは旗持をやりたい者がいたから、その中から選ばれることになった。パイプを横に置いた状態から両手でパイプの端を持つ。端から両手をくつついた状態で、先端を持ち上げられれば合格という感じだった。順番でそれを行ったんだけど、それがなかなか上がらない。自分も最初は上がらなかったけど、根性で何とか上げられた。それで自分が旗手を務めることになったんだ。それからは毎日ではないけれど、パイプを上げる練習も追加された。その練習の度に、手は赤くなり、タコのようなものもできた。今思えば、団旗のポールとは全く違う太さだったから、本当に練習になったのかどうかは少し疑問だけど……。

団旗にかける思い

■ 応援練習における応援團入場がとても印象に残っています。

普段の練習では団旗は出さないことが多かったから、応援團入場の時の団旗の持ち方、歩き方、旗の振り方などは、本番の少し前にしか練習させてもらえなかった。自分のころの旗手用のベルトは肩から股下まであったんだけど、手元側の先端は股の間なので、専用のサポーターを履いて団旗をもつスタイルだった。歩き方は、体育館の床とボールが水平になるようにして歩く。体はその重さを支えるように後ろにそっくり返った状態で、しかも持つのは片手で、もう片方の手は大きく振って歩く。真つすぐ進んだ後、ステージの手前で90度カーブさせる時は、団旗がいかに綺麗になびくかを考えて、力を込めて一気に振った。先輩からそのカーブの振り方が見せ場と言われていたが、ここがかなりキツかった。一番初めに入場し、一番目立つので、精神的にも一杯一杯だった。また、あの行進曲がかかると集中力が増し、持っている力以上のものが出たように思う…。

■ 実際の野球、総体での応援は、やはり相当大変だったのでしょうか？

野球や総体などの屋外での応援は、当たり前だけど、かなり気を使った。立って持っているだけでも、風が吹けばヨットの帆のようになびく。端から見ればカッコよくきれいかもしれないけど、やはり旗持は大変だった。絶対に倒すわけにはいかないし、団旗を汚すなどもつてのほか。また、ボールの先端部はきれいに磨かれているうえに、尖っているため、人に当たれば大けがの元だ。野球の応援で回が進むにつれて応援も激しくなり、旗を振るんだけど、これがまたわが校の団旗は大きい。迫力がある分、旗手は相当な力仕事だったし、他校より目立つから、プレッシャーも大きかった。

■ 応援團での経験を通して、思うこと、感じていることは何かありますか？

日々の基礎体力の鍛錬という名の根性のみを鍛えるような練習や、先輩方々からの理不尽極まりない(その頃のイメージだけど(笑))指導は、炎天下の中でもふらふらせずに、熱い鉄板の上でも我慢してずっと立ち続けられるよう、体力的にも精神的にも鍛えあげ、プレッシャーに打ち勝つためだったと感じている。

また、応援團のやり甲斐なんだけど、こんなことがあった。1年生の頃だったか、サッカーの応援に行った。スタンド席があるところの試合ではなかったから、プレーヤーと同じ高さの地面での応援だった。声は張り上げるように応援していたんだけど、その時「俺たちの応援って、本当に届いているのか？」と感じたことがあった。主役である選手たちが、自分たち脇役が勇気を与えることができているのか？と思ったんだ。ただ後日、同級生のサッカー部員から「応援歌聞こえたよ。ありがとう。」と言われたんだけど、今でもよく憶えている。俺たち応援團の誇りを持つことができた瞬間だった。

卒業してからの人生のほうをはるかに長い。しかし、たったの3年間の応援團経験、旗持経験はその後の人生において大きな影響があったと思う。いわゆる「根性」というヤツと、縁の下の力持ちってヤツ。

あの大きな赤い団旗が、真つ青な青空の下、風にたなびいているのを下から見上げた姿は、自分の自信という形で心の中に数十年残っている…。



井上 隆尚 さん

1984年(昭和59年)卒業

知られざる 強行遠足の「裏側」

～支えてくれている方々がいるから、今がある～

第92回を数える「強行遠足」

その裏側には

さまざまなドラマが展開されていた。

創立139年目を迎え

その歴史を紐解き

今まで支えてくれた方々に

「スポット」をあてる。

私たち大人は、かつて若いころ、その時代の大人たちから同じような趣旨のことを言われたのを忘れてしまって、あるいは、忘れたようなふりをして「とにかく今の若い者たちは…」というようなことを口にする傾向がある。実はそういう若者たちをつくり上げた責任の一端は大人にあるということを忘れていようである。若い人たちの大多数は、本当は、自分が厳しく鍛えられる機会を待っているのである。適切な機会さえ与えられるならば、彼らは、大人が期待する以上に立派な根性を示してくれるに違いないと私は信じるのである。

(第22代校長 山下穆 著「強行遠足について思うこと」

雑誌『青年の心理』に寄稿)

「強行遠足」のもつ意味の1つは、
ここにあるような気がしてならない。



原点回帰へ

平成14年(2002年)10月、第76回強行遠足において、悲惨な事故が起きた。午後1時55分頃、女子終着地小海駅に間近い町道を歩行中の女子生徒(水谷さん)が暴走してきた車にはねられ死亡したのだった。近くを歩いていた別の女子生徒も軽傷を負った。大会史上初めて起きた死亡事故だった。

水谷さんの死を深く悼むと共に、強行遠足はその意義やあり方について、廃止の可能性を含めて根本的な検討を迫られることとなった。継続決定に至る過程には多くの苦悩が伴った。

卒業生にとっても「甲府一高のアイデンティティそのもの」といっていくらい大きな部分を占め、心の拠り所となっている行事であった。慣れない夜間歩行で疲労感が増す中、多感な時代なのでいろいろなことを考え、自分と対峙する時間、友人との語らい、励まし合いの中に、その後の自分自身の心身に深く刻み込まれる記憶がある。



事故後4ヶ月余りをかけて検討して得られた結論を、保護者に説明。ルート・時間設定、安全対策の細部が練られ次年度から実施に至る。

～そしてこれからの強行遠足とは～

2003年～2007年

男子・女子共に

▼野辺山まで

▼昼間の歩行のみ

OBの中で動きが…

甲府一高OB強行遠足

2005年から「強行遠足の復活を祈念し」OB強行遠足が始まった。コースは甲府一高から北杜市のオオムラサキセンターまでの28km。今では、目的も「甲府一高の強行遠足復活を祝し、また甲府一高OB等参加者の親睦を図る」とし実施している。2018年度で14回を迎える。

「強行遠足」コース復活を
求める署名活動

強行遠足を支援する会が立ち上がり、同会は2008年2月、東京・山梨などの同窓生737人の署名を添えて「強行遠足の終着点を男子は小諸、女子は小海に復活」「安全対策の充実」の申し入れを行った。支援する会の有志は

「全力で準備・運営などに協力しますので、ぜひコースの復活をお願いします」と、新津校長(当時)に訴えた。

学校では…

安全・安心最優先の行事であること
職員間に夜間歩行のノウハウが伝承されなくなることへの不安

2008年～2012年

男子▼小海

▼夜間の歩行再開

同窓会が佐久穂から小諸間の
検印・給水所業務を担当

2013年～

男子▼小諸へ

女子▼小海へ(2012年～)

佐久穂・白田・中込・岩村田・三岡・小諸 拠点&検印所へのOB配置人数 総勢約312人

強行遠足道中こぼれ話

1 松原湖

学校から68km、国道から少し入ったところ。強行遠足で唯一、個人の家をお借りして救護検印所としていただいているところである。ご自宅を提供していただいているのは小池竜太郎氏である。小池氏のお世話になるのは亡くなったお父さんの代からで40年近く続いている。当初は国道沿いに検印所があったが、交通量の増加に伴い、農道を歩くようになり、それに伴って検印所として自宅を提供していただきたことである。



甲府
一高

Start

2 野辺山本部

学校を出発してから52km。野辺山本部には熱い「しじみ汁」が用意されている。第3回の大会から戦前・戦後の食糧難の時代にも毎回欠かすことなく用意されてきているという。今では日新ホールの主人で昭和26年卒の同窓生である丸山良夫氏が20年近くすべてを用意していただきた



(第80回強行遠足記念誌)より抜粋)

3 白田

「この陽気だと今年は、トップは早く来るよ」と、トミ子さんと一緒に親戚・近所の方が夜中に作った愛情こめたおにぎりを前に置き、リングを磨き、脇の火鉢で牛乳を温めながら、徹夜で生徒を待つ「白田のおばあちゃん」こと依田トミ子さんの帽子をかぶった姿が検印所にあった。まさに長野の「マザー・テレサ」といえるような存在でした。昭和38年「中込」がゴールになって以来長きにわたり一高生を温かく待ち続けていただいた。平成18年2月2日(享年94歳)ご逝去された。



「校長先生はまだ来ないけ？」とおばあちゃんの声が耳に残っている。依田家の長男(故)寿政さん夫妻は、近所で酒屋を営み、次男正晴さん夫妻は牛乳販売を営み、おばあちゃんと共に白田検印所を支えてくださった大切な方々である。また、おばあちゃんから手渡されたリングを持ち帰り、彼女に手渡すと、手作りの「アップルパイ」がお返しになるという伝統の「白田のリング」の提供者は、岩松今朝一さんである。依田家と懇意にしていることから、長年協力していただきたっている、忘れてはいけな方一人である。このリングは「紅玉」種で、今では主に「飴」などの材料になるもので、栽培者は少なく、岩松さんは一高生のために今でも丹精込めて栽培を続けてくれている。

● 白田参り

新任の応援団長は、検印所で依田家代々の霊前に両手を合



ている。当日の1ヶ月前には、しじみ100kg、味噌20kgを予約し、当日は朝から準備をして提供してくれる。

また、野辺山の「名コック長」岡部勝雄さんは本校の卒業生ではないが、松本コースの頃からしじみ汁作りに協力いただいている。

岡部さんの手にかかるのと、野辺山の広場がたちまちのうちに大調理場の様変わり。水道の配管、電気の配線、調理

台の巨大なかまのセット等、見事な調理場が仕上がる。機具運搬から後片付けまで一切を中心になってしてくださっている。男子のトップ通過午後8時ころから、女子のラスト通過午前11時ころまで休みなく「しじみ汁作り」は続く。

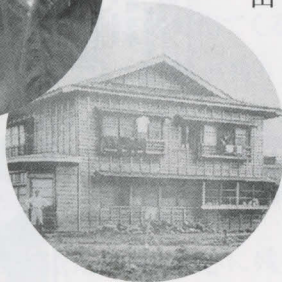
もう1人忘れてはいけない。このような大量の道具（大釜3台・水道配管用パイプ・流し台・大型蛍光灯・火鉢・ドラム缶・大量の薪等）や器材の大半を預かってくれている、野辺山駅前の菊本みやげ品店店主の菊池和儀さん。昭和37年の佐久往還コースになった当時は、木造2階建てで、2階を本部に利用させてもらっていた。昭和63年ま

では菊本旅館として、それ以降は野辺山ホテルとして貸与させていただいてい

る。年1回の強行遠足のために、40年以上荷物置き場として倉庫を提供してくださっている。

2トトラック1台分の荷物が商品の置き場であるはずの倉庫の一部を占領しているのだ。

（第90回強行遠足
記念誌「より抜粋」）



野
辺
山

松
原
湖

白
田

三
岡

小
諸

Goal

わせる。これは一人前の応援団長になるために絶対欠かすことのできない通過礼儀である。故依田寿俊次さん（トミ子さん夫）の御霊を慰め、強行遠足の無事を祈願することが応援団の責務となり、団長職継承儀礼の一環となっている。

（第90回強行遠足記念誌「より抜粋」）

より抜粋



4 三岡

三岡検印所が開設されたのは、男子の終点が小諸になった昭和40年からである。柏木家3世代（勇治氏・宇三郎氏・浩氏）にわたりお世話になっている。「年若い少年が自分の力の限りを尽くし、精一杯がんばる姿はまことに尊いものだ」と宇三郎氏はいつも口にしていた。柏木様の敷地の一部をお借りし勤務していた。お宅で宿泊も食事も提供してもらった。昭和60年、家の建て替えに伴い、旧家屋の跡地には大型倉庫を新築され、検印活動がしやすいようにスペースを十分にとり、道路側に幅広い入り口も作ってくださった。強行遠足用に水道の蛇口を残し、実施の時には仮設トイレも設置してくれた。そのほかの器具・机・いす・釜・鍋・ス

トープなど一切提供していただき、大型物品は学校から運ばなくて済んだのである。

（第80回強行遠足記念誌「より抜粋」）



強行遠足 全行程



「第90回強行遠足記念誌」より

一高生としての強行遠足

村松 敬さん【昭和56年度1年生】

今、青春の1ページが終わった。

それは、17時間24分のドラマであった。

小諸までの101km、自分だけがその本当の意味を知っている。

101kmの道のり、それは長かった。

歩いているうちに、なみだが出てきた。なぜこんなことをしなければならないだろうと何回も思った。しかし、そんな時には不思議に自然に足が動いた。たぶん、自分のこの強行遠足に対する最後の抵抗だったのであろう。やめたいと思ったことをのりこえた時にも、よくのりこえられたと自分の力に感心した。またそんな時にも、なみだが出てきた。80kmをすぎて、夜が明けようとする頃からいろんな意味で出てくるなみだを友達にさとりられないようにと、隠しながら歩いた。

こんな自分でも、行程が残り少なくなると、やめたいと思うことよりも、絶対行くんだと、欲が出てきた。体力の限界をこえた今、たよりになるのは精神力だけであった。自分と戦いながら歩いた。

(中略)

この強行遠足を終えて心に残ったものは、何であったか。小諸に到着することだけが目的ではないだろう。参加することが大切なのである。甲府一高の生徒として感じることはみんな同じはずである。いつまでも、本校に学んだ者の心の中で青春の1ページとして残っているだろう。

最後にこの甲府一高のすばらしい強行遠足を、これからも続けていくために、私たちは努力をおしまないであらう。それは、これからの数多くの後輩たちにも、この強行遠足を体験してもらいたいからだ。これは甲府一高生徒の責任でもある。

強行遠足を体験したものは、きっと私のように甲府一高に入学してよかったと、しみじみと思っているだろう。

101kmの道のり、それは心の中で続いている。

言葉で表現できないすばらしいことが強行遠足にはたくさんある。

「佐久往還強行遠足 20周年記念誌」より
下線 編集部



ありがとう支えてくれた方々…

ありがとう甲府一高…

ありがとう強行遠足…

「この甲府一高のすばらしい強行遠足を、これからも続けていくために、私たちは努力をおしまない」

この思いに尽きる。同じ体験をし、同じ痛みを分かち合い、同じなみだを流した仲間、我々同窓生の心を虜にする行事『強行遠足』、きっといつまでも忘れないだろう。

「強行遠足」が安全・安心の下、永遠に続くことを祈念する。

青春の1ページ

岩間 冬美 (平成15年卒)



甲府一高を卒業して気がつけば15年経ちました。大学進学、就職、結婚、出産と色々なことがあり今は二児の母として子育てに仕事に慌ただしく過ごしています。たくさんの思い出に上書きされ高校時代は少しずつ色あせていくなか、今でも忘れられない経験はやはり「強行遠足」です。運動は好きだけど走るの嫌、そんな私にとって強行遠足が近づいてくると憂鬱で憂鬱で登校するのさえ嫌になってしまうほどでした。いざ強行遠足を迎えると仕方ない、やるしかないかと心を奮い立たせていたのを思い出します。一緒にゴールしようねと約束した友人も気がつけば隣にはいなくなり、ただただ知らない山道をひたすら前に進み自分の物ではないんじゃないかと思うほど重たい足を必死に引きずる。次の検印所でぜったいリタイアする!と心に決めるのに、検印所で先生方の顔を見て判子を押してもらおうと、もう少し頑張ってみるかと思議とまた前に進み出す。それを繰り返し、小海まで到着した時のあの感動と達成感は何にも代え難いものがありました。

卒業してからの15年で本当に色々なことがあり、辛いことも苦しいこともたくさんあったはずなのに、強行遠足に比べたら大したことないなと感じてしまう。女性にとっての人生の一大イベントである出産でさえも、強行遠足の方が辛かったと思います。これから先の人生、きっと辛いことも苦しいこともあると思いますが強行遠足を体験している私はきっと乗り越えられるでしょう。そんな貴重な体験を十代の思春期真っ只中で経験できたということはとても価値のあることだと思います。一高で過ごした3年間は私の34年の人生の中でとてもかけがえのない時間でした。それはこれから先もずっと変わりません。

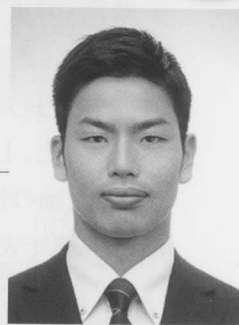
そんな風に思わせてくれた一高への感謝の気持ちから昨年の一高同窓会のサブ幹事を引き受けさせていただきました。先輩方のあたたかいご指導と、卒業から長い年月が経っても変わらずたくさんの仲間が集まる団結力を間近で見ることができ、16年後50歳になった時私たちも同じようにたくさんの仲間たちと笑い合いたいと強く感じました。昭和61年卒業生の先輩方、本当にありがとうございました。

Message from OB

特集 5

甲府一高を卒業して思うこと

大木 格 (平成17年卒)



甲府一高を卒業して14年が経ちます。当時は伸び伸びと高校生活を送っていたように思います。一方で「伝統、伝統うるさい」と感じることもありました。当時はそれほど愛校心もなく、「ただ歴史の長い割と居心地の良い学校」と考えていました。そのような中で、授業・部活動・放課後の横店の繰り返しの毎日でした。甲府一高では小学生から始めた空手にのめり込んでいき、高校生の全国大会では優勝できずに終わりましたが、その悔しさのおかげでより努力をすることができました。当時お世話になった先生方には応援やご理解をいただき本当に感謝しかありません。現在こうして空手を続けることができ、教員として子ども達の教育に携わることができているのは一高時代にお世話になった先生方のおかげだと思っています。

甲府一高を卒業し、教員になるまでに本当に多くの経験をさせていただきました。その中で教員として甲府一高の教壇に立てたことはとても良い経験でした。冒頭で書かせていただきましたが、高校時代は母校に対して思い入れは強くなかったのですが、教員として甲府一高に携わることができ、考えが変わりました。高校時代にお世話になった先生方とも一緒に働かせていただくこともでき、色々な考え方を学ばせていただいたり、教え子達の頑張る姿や、卒業後も夢を追い努力する姿、目標を達成した姿を見ると教員としても先輩としても嬉しく思ったことを鮮明に覚えています。また、他にも同窓生と出会う機会も増えました。様々な機会に一高の先輩と出会い、お話をさせていただくと一高の伝統を感じることができました。同窓生が多面で活躍していることも知ることができ、あれだけ嫌いな「伝統」という言葉でしたが、今では本当に甲府一高の卒業生であったことを誇りに思っています。

同窓生として一高生には勉強だけでなく多くのことを学び、一高のためではなく自分のために頑張ってもらいたいと思います。今後ますますの一高のご活躍を陰ながら応援させていただきます。

長い歴史の中で

小池 直矢 (平成17年卒)

現在、私は(有)甲府スポーツで働いております。学校用品や体育機器、スポーツ用品を取り扱う仕事をしており、忙しく充実した日々を過ごしております。仕事を通じ、母校へ伺わせていただくことも多く、現在も、身近に創立139年の歴史や伝統を感じることを嬉しく感じております。



私が母校への入学を決めた最大の理由は、部活動と学業を両立できる学校、ということでした。入学当初の思い出は、つらい思い出ばかりで、野球部として活動していた私は、両立の難しさを痛感する日々を過ごしておりました。先輩の教えや、先生方の指導の下、試行錯誤しながら、必死になって過ごしていたことを思い出します。

部活動では、朝早くから夜遅くまで、練習したことを覚えています。技術だけでなく、人間力や考える事を学び、日々の厳しい練習や、ともに汗を流した仲間、学校のサポートのおかげで、34年ぶりに秋季関東大会への出場を果たすことが出来ました。学業においても、日々の勉強の積み重ね、先生の指導のおかげで、志望校への入学を達成することが出来ました。今思えば、歴史のある甲府一高という環境の中で、チャレンジする機会を多く与えていただき、失敗を多く経験させていただいたことで、考える力がつき、部活動と学業を両立することが出来たのだと感じています。

母校での経験は、大学においても身になっていることを実感することがありました。大学時代に所属していた体育会野球部は、プロ野球選手を輩出する、とてもレベルの高い野球部でした。日々の練習だけでなく、寮生活なども厳しく、影で泣いていたことを思い出します。私は試合こそ出ることが出来ませんでしたが、4年間部活動が続けることが出来ました。途中でやめる選手も多かった中、4年間続けられたことは、今でも私の誇りとなっております。高校時代の厳しい練習や、多くの失敗を経験していなければ、野球部員としてチャレンジすることすらできていなかったと思います。

長い歴史のある高校で学ばせていただいたおかげで、今の私があると感じております。139年という長い歴史の中で、私が過ごした3年間は、微々たるものですが、これからも後輩たちのために、先輩方が積み重ねてきた歴史と伝統を途切れさせぬよう、陰ながらサポートしていけたらと思っております。そして、これからもずっと、甲府一高とともに、一高野球部を応援し続けたいと思います。

特集5 卒業生からのメッセージ。

139周年同窓会記念誌に寄せて

代 永 彩 夏 (平成23年卒)

甲府盆地の暑い夏、部活の休憩時間にアイスを頬張った横店や前店。くだらないいたずらを企んでは友人たちとお腹をかかえて笑い転げた教室。ハゲ岳おろしが吹きすさぶ冬、寒さに泣きそうになりながら自転車を漕いだ家路。当時の情景の一つ一つが、とても懐かしく愛おしく思い出される。一高在籍時の同窓会にて、吹奏楽部のみんなで三つ編みのおさげ髪でユーミンの卒業写真を演奏したこともよい思い出だ(今でも同じように後輩たちが演奏するのだろうか。)

中でも、卒業式後の教室、恩師の声掛けの下、これからの希望や夢、実現したいことを一人ひとり宣言したことは特に印象深く残っている青春的一幕だ。宣言通り夢を叶えて日々を邁進する者。今もなお、当時と変わらない目標に向かって突き進む者。本人も周りも思いもよらなかった新たな道に進んでいる者。時折聞こえてくるかつてのクラスメイトの今に、刺激を受けずにはいられない。多様で個性的な人材を輩出する、この度量の深さが甲府一高なのだと思う。

さて、“作業服姿で働くのって超かっこいい!”というミーハーな気持ちで、エンジニアに憧れを抱いて工学部に進学した私は、修士課程を経て、現在、企業の研究所で研究者として働いている。念願の作業服で手と頭を動かして実験する日々だ。自動車の電動化が加速する中で需要が高まる“車載用電池の製造プロセスによる低コスト化と電池性能の向上”が私の仕事だ。そんな私の卒業式の日々の宣言は、“日本の資源・エネルギーの問題を解決する”であった。高校生の自分が描いた未来と今はそう離れていないし、より具体化しているだけとも言えるかもしれないが、まあ、小さくまとまってしまうことは否定できない。当時の私が実現したかったことはこんなものではなかったはずだ。あの頃の生き方をあなたは忘れないで――。あの頃の恩師に、あの頃の学友に、あの頃の自分に、叱られぬよう大きく動かねば。





思いおこすこと

学年主任 志村 洸

平成の時代が終り元号があらたまることにより新しい時代が拓かれることと大いに期待するのです。

私が一高に赴任したのは昭和四十年の四月でした。年令も四十才、なんとか一人前の教師として教壇に立てる自信をもちはじめた頃でした。母校に勤務できる喜びで「やるぞ」という気力が湧きあがってきたのを今もはつきりと思い出します。

私が一高に入学したのは昭和二十六年四月です。まだ終戦後のきびしい生活環境の中でしたが一高の自由でおおらかな校風は学習や部活動にも反映されていました。しかし学習面では学力不振の仲間が何人も転校させられたり生活面でも厳しい処分がなされていました。また当時、大学では政治に関する学生運動が激しさを増しておりました。その影響は高校生活の中にまで及び上級生の中には拘わりを持つ生徒も出てきていました。

私の一高勤務は十三年間でした。

その前に甲府南高校で甲府総合選抜の二期生を担当し、また退職前の三年間を甲府西高でしたから、甲府総合選抜には始めから五校選抜まで二十年間ほど経験してきました。私の愚息も生徒の一人でしたから当時の保護者の心情はしっか受けとめることが出来ました。

今回の一三九回同窓会の当番幹事の皆さんは昭和五十九年四月入学、六十二年三月卒業です。私が学年主任として三年間共に学んだ生徒達です。

昭和五十年代に入るとベビーブームと重なり高校進学率は九〇パーセントをこえ、当然大学への進学率も高まってきました。中学から高校への全員入学ともいえる状態は質的な面だけでなく基本的な生活習慣など多様な面での対応がきびしく求められたのです。そして昭和五十七年に学習指導要領が改訂されました。科学技術の革新や経済、社会文化の進展に対応し教育内容の多様化や生徒の実態にに応じての改訂でした。

今回の当番学年の皆さんは教育課程の変革のもとで大学入試でも競争率の上昇等きびしい環境の中、将来を模索しての三年間でした。

思い出をたどるとき、はずせないのは強行遠足です。三年間好天に恵まれよい成果を残しました。

小諸までの中間点である野辺山本部で私は十年間勤めました。ここで長時間休んでしまうと体が動けなくなるのでシジミ汁を飲んだらすぐスタートさせるのが一役でした。そして私が三十年前に上諏訪の検印所で飲んだシジミ汁の味を思いおこすのでした。当時の検印所は夜間二、三人の先生がおられるのみで検印してくれました。まっ暗な甲州街道、明りは駅の灯のみでした。このあたりまでくると三足のワラジも残りは一足、塩尻峠を下るとあと二十キロ、意識はもうろうとしながらも足は松本へ向かっているのです。

小諸コースに変わってからの百キロは私が経験した六〇数年前とは比

べることは出来ません。保護者の皆さんや多くの方々の支援のもとで続けられているこの行事、主役である生徒諸君はほんとうに幸せだと思おうのです。

この経験こそ生徒達のその後の人生に大きな支えとなってくれるに違いありません。今年度(平成三十年)は高校野球百回記念大会でおいに盛り上りました。そして試合中に流れる各代表校の校歌に私は魅了されたのです。校歌はその地方の歴史、風土の重さを称える言葉で歌われておりすばらしいものでした。そんな時ふと甲府一高の校歌を口ずさんでいるのです。そしていつか甲子園球場に甲府一高の校歌が響きわたってほしいと願うのです。

歌詩にこめられた「日に新た、また日に新た・・・」こそ変化の激しい今もつき進んでいく甲府一高の生徒達の精神の柱です。彼等に幸多からんことを、そして母校の更なる発展を祈ります。



思いつく儘に

3年1組担任 山本 秀彦

平成の元号が使われて以来今年は三一年になります。今年の何月になる

のかわかりませんが、新たな年号が制定される運びになっているようです。

どんな名称になるのか期待するところでもあります。連綿として続く歴史の流れの中であって、まさに節目の年になる訳です。その今年、同窓会総会の幹事としてあたられる学年の皆さんには、二年もの前の準備段階からたいへんにご苦勞をお掛けしているところでもあります。そして、過日は担当の方から総会記念誌用の寄稿文作成の依頼を受けたところです。

一高から転出して以来三十余年も

の時の流れの中で、何をどのように書いてきたのか迷い困惑する日々を過ごしたところです。

昭和五四年から八年間、私は甲府一高に勤務させて頂きました。既に多くの人々に知られているように本校は創立も大変に古く、良き伝統に恵まれた格式の高い学校ですから、私も新任者にはおのずと敷居も高く、

緊張感のたえる間のない勤務であったことを思い出します。

一高のことについては、その前から若干は知ってはいるつもりでしたが、時間の経過や記憶の曖昧さの中で、記憶とか感想とかは消え去ってしま

い、或る意味においては身のまわりに起きることの総てが新しいことのよう

に感じたのでありました。あらためて自分自身の鈍感さを痛感しながら

の生徒諸君とのお付き合いでした。

私は化学の教員でしたから当時の学年における担任は理系のクラスの

学級担任でした。六二年卒生との二年間が私の一高の教師生活最後の担任学級でした。明るく、個性豊かな生

徒諸君で、時には脱線するようなこともありましたが、強行遠足等の諸

行事、文武両道を標榜する部活動、進路の決定等の学校生活における諸分野において良い結果を出してくれた

ように思い出されます。そして今や

社会生活のまったく中であって活躍

されている様子が伺い知れるのです。

皆さんにおかれては、これからますます人間味溢れる先見性を発揮し、社会における水先案内人としての役割を果たして欲しいと思うこと頻りの昨今です。

ところで、話題は変わりますが、最近の私達を取り巻く環境についてですが、以前の状況と比べ随分変わってきていることに気が付きます。

いつまでも続くようになった夏の猛暑、豪雨とそれによる土砂災害、頻発する猛烈な台風や大地震による災害など、地球温暖化などによる影響

というもののようですが、以前におこっていた自然現象とは状況が大きく変わってきました。

異常的に発生する天候異変の原因が何なのか分かりません。ひとつの要因として、人間社会において営まれる様々な生産活動などが指摘される学説も登場する折ですが、勿論そう言い切れる程単純な問題ではないと思います。様々な要素が絡んだ複雑な問題でありまして非常に憂慮される

のです。時を置かずの地球規模での取り組みがなければ克服不可能の問題でありましょう。もっと言うならば地球上に住む人間一人一人が問題を解決する取り組みを行っていくこと、そんな小さく見える行為の継続と繋がりが大きな力となって人の世に作用していくように思えるのです。

私たちはこの美しいかけがえのない地球をそのままの姿で子孫に伝えていかなければなりません。それは地球上に住む人間に課せられた義務でもあります。

暖かい晩秋の陽のなかで美しく紅葉に彩られた風景を目の前にしてふと思うのです。

何か思いつくままに字句を羅列した文章になりました。記念誌への寄稿文として必ずしもその趣旨に沿っていない点もあるかと思われすが、ご容赦頂ければ幸いです。



懐かしいあの頃

3年3組担任 赤池 亨

手元にある卒業記念のアルバムや「日新鐘」を眺めていると、ページをめくる度に懐かしさが込み上げてきて、時間の経つのを忘れてしまいそうになります。

私が甲府第一高校に赴任してきたのは、二八歳のときでした。五月が誕生日なので、すぐに二九歳になりましたが、教員としてはまだまだ未熟で、今になって思い返してみれば、生徒の皆様さんにとっては、申し訳ないことの方が多かったように思います。

一高に赴任する前は、県の東端にある上野原高校に勤務していました。高校が開校するのと同時に着任したので、始めの頃は校舎もグラウンドも未完成、校歌は勿論のこと、学校を運営するための規則や職員の組織体制など、未整備な点がたくさんありました。また、職員の年齢層も非常に若く、校長先生や教頭先生、学年主任の先生を除けば、ほとんどが三十歳前後か、それ以下という状況でした。

学校づくりを一から経験し、子ども達と無我夢中で過ごす中で、教師としても少しは成長したのかなと思います。

つつ、一高に赴任してきましたが、新設校と百年を超える歴史を持つ甲府一高とでは比べようもなく、教師としても学ぶべき事柄が沢山あることを再認識させられました。

土足履きで入る校舎、床に塗った油の臭いが残る教室、チャイムの替わりに鳴らす日新鐘など、歴史を刻んだ校舎は、新設校の真新しい校舎と違って、貫禄というか威厳のようなものを感じました。

また、先生方の年齢構成も高く、同じ数学科の中では、私のすぐ上は一回り年齢の違う渡辺先生と斉木先生、学年主任の志村先生でさえも、数学科の中では若手に入っていました。それでも数は少ないものの、同じ学年の安藤先生や古河先生、新採用だった野球部監督の堀之内先生(当時、私は野球部の顧問でした)など同じ年代の先生方には様々な場面で助けていただき、たいへん感謝しております。

その頃、一年生のホームルームは西館で、二年生以降になると理系は本館、文系は北館に別れたように記憶しています。私は、二年生、三年生のとき

きは理系クラスの担任でしたので本館に入りました。本館は本当に古い建物で、入口が低く、窓も開かないところがあったり、特に、東西の両端の教室は通気性が悪かったりして、教室環境としては決して良いとは言えなかったように思います。

奈良・京都に行った研修旅行、車山で行った宿泊学習、スキー教室や万メートル走だけでなく、職員チームで運動会のリレーに参加したり、球技大会でソフトボールの優勝クラスと対戦したりしたことも懐かしく思い出されます。その中でも強行遠足のこと

は格別な思い出として残っています。私は一高のOBではないので自分自身が体験したことはありませんが、強行遠足のことは以前から良く耳にしていました。しかし、実際に関わっ

てみると、その規模の大きさは言うまでもなく、学校としての力の入れ方も並大抵ではないことに驚きました。特に、当時の望月政廣校長が数学科の酒席に参加された際に、この行事に対する思いを熱く語られたことは、今でも鮮明に記憶しています。

百年を超える歴史と伝統、その歴史の中で排出した三万人を超える同窓生とその活躍、本県の高校教育において甲府一高が果たしてきた役割や実績など、それまでに認識していなかったことが次第に分ってくるにつれて、責任や使命の大きさを痛感し、私自身も教師として成長させてもらったように思います。

昭和六二年に皆さんが卒業した後、平成二年、平成五年と計三度の卒業生を送り出し、教諭として九年間、勤務しました。そして、平成二十年に教頭として一年、平成二六年から校長として二年、計十二年お世話になりました。振り返って見れば、私の教員人生は甲府一高と共にあったと言っても過言ではありません。

この度の同窓会を企画し実行していただいた昭和六二年卒の皆様が、社会の一員として立派に成長され、それぞれの立場で活躍している姿を見るに付け、甲府一高の持つ教育力の大きさに改めて敬意を表すとともに、皆様



断 想

3年4組担任 安藤 十三男

創立139周年同窓会の開催おめでとうございます。

創立100周年の前後に勤務させていたからすでに40年近くが経過し、AI技術を核とする世の中の進歩予測に追従できそうにないことが我が身の未熟と相俟って迷妄は深まるばかり。諸先輩方に交じり記念誌に拙稿を寄せるのが憚られる所以です。

あの頃は意識の外にあった「古き良き時代」という言辭に、今万感がこもります。「アクティブ・ラーニング」などと言わずとも、自ら進みゆく道を求め、主体的に積極的に学んでいた生徒達。生徒会役員たち。また、深い伝統に立ちながらリベラルであることに躊躇のなかった諸先生方。とりわけ、教師としての矜持を授けていただいた古屋幸雄先生、田中資時先生。三枝満先生には国語の教師像をたたき込まれました。また、雨宮泰明先生、黒部信義先生、志村洸先生。校是の「日に新た、また日に新

た」は確かにその方々の中にありました。鬼籍に入られてしまった方も、なお、教員としてのイメージを強烈に照射していただき、教員としての終焉を迎えようとする今日まで、私はそこに深い根を探り続けてきました。一通りの感謝では済まされないうれ得ぬ方々ばかりです。（※62年卒の方々には馴染みのない先生方が多いですね。）

さて、昨年の吹奏楽コンクール西関東大会高校部の会場に4人の女性が、演奏を終えた私を訪ねてくれました。咄嗟にお名前を思い出せず、固有名詞を失念することが多くなった旨を詫びて尋ねると、三十数年前の甲府一高での記憶が還り、半時近くも立ち話をしてしまいました。担任二回り目の若輩が学年主任志村洸先生から女子クラスの担任を拝命し、慎重に？日々を過ごしていた、その時に一高生だった彼女たちの穏やかで温かな物言いはあの頃への深い愛惜を湛えていました。

その5年前、還暦を迎えた年の5月に、甲府一高応援団吹奏楽部のOB・OG有志が身に過ぎるお祝いの会を開いてくれました。スポーツタイプの高級外車で迎えられ、甲府富士屋ホテルの広間では100名近くが待ち受けてくれました。次々にかつての映像が浮かび上がる懐かしい面々を前に、感謝の挨拶や思い出話を話した後、「フラ分（フランス分裂行進曲）」（※応援練習の入場行進の音楽です）を皮切りに、「校歌」斉唱、「鶴城に」「起て 撃て 勝て」と応援歌の演奏・斉唱。スコアを見ずとも指揮棒は動き、歌詞まで衰えた脳の奥から帰ってきていました。そして「希望の光身に浴びて」と歌う頃になって、立ち現れる記憶の興奮の渦の中から、「ああこの人達は一高が好きなのだ」という思いが立ち上がった来て、それが会場に充満しているように感じていました。

2次会3次会4次会と止むことのないかの如き宴の果てた数日の後、彼

らの綴ってくれた文集からは身に余る贅辭の向こう側にその頃の私の未熟さ、やりたい放題が浮かび上がってきました。若輩とは言え、天下に誇る甲府第一高校に在籍した人間の仕事を若気の至りと括るのは申し訳ない気がします。無精髭、薄黒く偏光した眼鏡、チノパンにTシャツという姿でレッスンする写真には、『坊ちゃん』さながら無鉄砲であったことに汗顔の至りです。こんな者にも幸福な時間を惜しげも無く与えてくれる彼らでした。

深い伝統を校歌や応援歌の中から探り得て、そこに立脚しながらリベラルであることに躊躇のなかったのは生徒達も同じでした。「一高生らしく」と言うだけで身を律することを知っていた「よき時代の」一高生にはシンギュラリティーなどものともせぬ精神が宿っています。人生の実りの時期を迎えた方々の行く末に、幸多かれと祈るばかりです。



思い出することなど

3年6組担任 保坂 すみ子

1986年、甲府第一高等学校に在職して三年目の四月、卒業生を送り出しほっとしていたときであった。

校内人事で「留年」を告げられた。すなわちもう一度三年生の担任をということであった。その当時他校に比べれば女性教員は少なく、男性教員はいえベテランと呼ばれるにふさわしい先生方が多くいられた。その中であつては、私はまだまだ若輩者の青二才であつた。だから校務分掌を決めるにあたっては、私は動かしやすい駒の一つであつただろう。しかも今度はいわゆる「女クラ」（じょくら）ではなく「男クラ」（だんくら）でもなく、男女クラスの担任ということであつた。新一年生なら私のほうが先輩顔してうまくやることもできるのに、突然最上級生というのはなんとも荷が重い。彼らの方が家の主で、私が恐る恐る入っていくという心理は消しがたいものであつた。生徒は生徒で面識のない担任を容赦のない目でじっと見ていた

ことであらうと思うと、今でさえ冷や汗ものである。

そんなわけで一学期は私の方が妙に緊張してしまい、ぎこちないホームルームであつたかもしれない。が、ある意味生徒の方が大人であつた。勝手気ままに自由にふるまっているようにみえたが、それぞれの進路を選ぶか真剣に考え、勉学にクラブ活動に励み、良い実りが期待できそうであつた。六組を教えにきてくださっている先生方から教室もきれいだし、勉強も頑張っているよと言われると私は自分のことのように嬉しくひとりでに笑みがこぼれたものであつた。進路の結果もそれぞれが頑張りをみせ、学年主任の先生からお褒めの言葉をいただいた。

ふりかえつてみると四月から一年にもならない短いつきあいであつたが、私は生徒たちからずいぶん多くのことを学ばせてもらったような気がしている。それは歴史ある立派な伝統を

もつ甲府第一高等学校という大きな器の中で育まれてきたもの……延々と先輩たちから受け継がれてきたもの……それを校風と呼べばいいのか……そういう雰囲気の中で学んでいる生徒自身、また共に過ごしている教員自身もまた互いに良い意味での相乗効果となつて、ある種の緊張感を伴いながら向上心を喚起してくれた。校則は比較的緩やかで生徒を強く束縛するものではなかったが、とんでもないことをしかす生徒もいず、ある種の品位が保たれていたようにおもえる。そんな一高生を思い浮かべるときある言葉を思い出す。

「白い花の中の白い鳥」（かつて夢中になつて読んだ本では漢文調の表現であつたが）その言葉はわたしが勝手に言い換えてしまったのだが、長い年月を経て熟成されいつの間にかわたしの一部となり折にふれ思い起こされる。

白い花の咲き乱れる広い広い原っ

ぱ、その中にすーっと舞いおりる白い鳥、一瞬さんざめく白い原っぱ、その花の白さの中に埋没しその白と一体と化しているが……溶け込まれながら、それでいてその存在感を凜と放っている白い鳥……。

一高生の多くはその「白い鳥」であつたようにおもえる。その頃はみな野原に思い思い咲き乱れる花々であつたであろうが、それでもそれぞれが自分というものをしっかりと、あまり周囲に踊らされるようなこともなかったであろう。各自が自分という存在をきちんと受け止めていたと言える。

私自身はといえばその「白い鳥」でありたいとずっと願ひ続けて、今にいたつてしまっているのだが。

共に過ごした時は短かつたが、未熟な教員のわたしに甲府第一高等学校が与えてくれたものはその後の教員生活のかけがえのない大きな財産となつたのである。



近況と あの頃の自分のこと

3年7組担任 中込 富夫

第一三九周年甲府中学・甲府一高
同窓会総会の開催、誠におめでとうござ
います。また、昭和六二年卒業生の
皆さん、当番幹事ご苦勞様です。総会
の成功を祈念いたします。

実は、昨年度の総会誌にも寄稿さ
せていただきました。ほぼ重複した内
容で、また記憶が曖昧な点や美化し
ている点などもあると思いますが、ご
容赦ください。

近況について

定年退職後、四年目となりました。
再就職を断って家庭菜園程度の農業
をしながら、月一、二回のゴルフと年
一度の旅行を楽しみに余生を送って
います。

農業は、先祖代々の土地が耕作放
棄地になっており、ご近所迷惑にな
るのでしかたなく始めました。我が家
ではこれを「ため息農業」と言ってい
ます。少し働いてはすぐため息をつ
いて仕事はかどらないという意味
です。この点で担任の時とはかく、
学校運営に関わってからの仕事の楽
しさを思うと教員が身の丈に合っ

いたように思います。無農業でと思っ
て始めましたが、一年であきらめまし
た。今は微農業を基本に、花と野菜を
ほんの少し、妻の名で「道の駅とよと
み」に出荷しています。日本の農業
は費用対効果が悪すぎるのを実感し
ています。日本は、私が就職する頃す
でに多くの農家が農業だけでは生活
できない状況でした。結果として後
継者はいません。いったん事あると
き、食の面から国が耐えられない構造
になっていること、また、食の安全と
いう観点からも我が国の農業政策は
貧困であると思っています。このよう
なことは、近隣諸国との関係や貧富
の格差拡大などを含めた社会構造の
変化、未だに原発を推進する国の態
度などなど枚挙にいとまがありません。
国は、将来への不安は余命二十年
しかないのかえって増えています。

ゴルフは、仲間との親睦が主の下手
の何とかです。昨年同様に何も書
けません。

旅行は、「為子孫不買美田」と決
めて、年に一回海外に出ることにしま

した。この三年間でヒマラヤを北と南
から眺めたり、サハラ砂漠でキャン
プをしたりしました。この年になると
つどうなるか分からないので、まず、
遠くとか厳しいところへ行って、足
腰が弱ってきたら楽なところへと考
えています。人生には何かをしなけ
ればならない時期があり、それが定
年前でしょう。定年後は、したいこと
をできるときにするという時期だ
と思っています。それも経済力や体力
との兼ね合いですが、これは致し方あ
りません。

思い出

三月末。三学年職員室で指導要録
をまとめていたとき。二学年主任の
志村先生が入ってきて「頑張ってる
ね。一高をたのむよ」と言っていて行
きました。「何をしにきたのだろう」
と思っていたところ、翌年度私は皆さ
んの学年、三年七組の担任になりま
した。戸惑いました。二年間、ともに
過ごして来た生徒と教師の集団に、
私だけが異星人のように入り込むの
です。その上、三学年の一年間は実質

九ヶ月で短いのです。クラスをまとま
りのあるものにできるのか。しっか
りとした進路指導ができるのか。前途
多難。そこで、全ては無理なので、進
路だけをしっかりとサポートしようと
決めました。正確な情報の提供と本
人の意思の尊重、より有利になる書
類作成などが基本でした。結局たい
した指導もできず卒業ということに
なりましたが、この判断はそれほど悪
くはなかったと思っています。ほとん
どの皆さんが現役で進学就職してく
れたからです。個性的な人の多いクラ
スで、ここでは書けないこともいろい
ろありました。それが、それなりにまと
り、学園祭や強行遠足も結果を残し
てくれました。私も、山梨国体にか
り出され、夕方学校に戻り夜遅くまで
生徒を学校に残して指導したりし
て、今では考えられないようなこと
もしました。ほめられたクラス運営で
はありませんでしたが、私の退職時に
も皆集まってくれて良い生徒たちに
出会えたと感謝しています。



甲府一高の階段のこと

3年8組担任 古河 通也

第139周年甲府中学・甲府一高同窓会総会の開催をお祝いするとともに、当番幹事として準備に当たられた昭和62年卒業の皆様に感謝を申し上げます。

私事で恐縮ですが、昨年3月をもって定年退職いたしました。教員生活の始めと終わりに母校の甲府一高に勤務することができたうえに、縁あって退職後も続けて甲府一高に再雇用していただいた幸せ者です。幹事の皆さんと出会ったのは35年前、新設の甲府昭和高校が加わった5校総合選抜の1年目でした。学校への愛着が希薄となり、将来同窓生として連帯感ももてるのだろうかと思配していました。しかし、数年前から当番幹事を意識した活動を始め、立派にその責任を果たし、まもなくその大任を終えようとしています。私は当時まだ若造の駆け出しの担任でしたが、今、皆さんの活躍を本当に嬉しく思い、劳いの言葉をお贈りしたいと思います。

今、美咲の地に懐かしい校舎も、体

育館も、講堂も、図書館も日新ホールもなく、多くの卒業生にとって、母校を訪れて往時を偲ぶのは叶えられないことかもしれません。しかし、大先輩の皆様が学校見学を希望され、私のご案内することが何回かありましたが、物としての形は無くても―これは何とも説明し難いのですが―母校に漂う雰囲気をお感じになられ、ついつい予定時間をオーバーしてしまいうことが多いのです。特に屋上からの景色をご覧になっていると、ご自身も「甲斐の国 み中に」立ちて記憶が甦り、青春時代の思い出話が尽きることはありません。

旧校舎では、今も健在な5本の「糸檜葉(いとひば)」を回って玄関に入り、正面階段を使って教室に上った生徒が多かったと思います。踊り場で階段が左右に分かれ、折り返す向きで上階に達しました。現校舎でも、1階生徒玄関から5階まで、同様の踊り場形式の階段となっており、旧校舎の深い味わいはありませんが意匠が生

かされています。旧校舎の階段は本館の北面にあったため暗く、石の階段が艶光りしていました。私の高校時代の記憶によれば、踊り場横にはトイレがありやや臭かった？ 当時は上下履きの区別がなかったもので、校舎内には結構泥が持ち込まれ特に階段の清掃は大変でした。当番幹事の皆さんを担任していたときは、清掃でうまく手抜きをしたり、いつの間にか姿を消す者がいて、「古河さん！ 階段に泥がたまってるよ。」と、先輩の先生方に注意され、しっかり監督せよ！とお叱りを受けた苦い思い出があります。

現校舎の階段は校舎の西端(相川側)にあり、1階生徒玄関から4階までは全面ガラス張りの吹き抜けになっていきます。踊り場から見ると盆地の風景が抜群に素晴らしく、5年前に赴任した時から断然この階段が私のお気に入りです。午前中は季節とともに移り変わる山々の姿が陽光に映え、夕方になると山々のシルエットがくつきりと浮かび、なんと美しいことか。

その裾野には御勅使川扇状地が、底辺の広い三角形を成してはつきりと認められます。甲府盆地は扇状地の宝庫ですが、これだけの規模の三角形を見られるのは全国でもここくらい、と「いいね！」ボタン？を押してしまいます。昨夏は山岳部副顧問として夜叉神峠から鳳凰三山を縦走して青木鉱泉に至る合宿に、ヨロヨロになりながらついていきました。踊り場からそのコースがすべて手に取るように見えるので、天気が良い日はしばしば佇み見惚れています。生徒には「階段で息が上がって休んでいる年寄り」とても見えていたのではないでしうか。

教室から見る富士山、踊り場から見る南アルプスの山々、変化に富む地形や季節の中で生活している人々…。ここで学ぶ生徒たちには、この風土で醸成された感性と個性を磨き、成長していってほしいと願っています。懐かしい旧校舎と現校舎の階段について書かせていただきました。



第一三九回 同窓会に寄せて

3年9組担任 手塚 和義

同窓生の皆様、また今年度の幹事の皆様ご苦勞様です。同窓会總會の成功を祈ります。

私が甲府一高に奉職したのは、昭和五十九年度から昭和六十四年度（平成元年三月）までの五年間でした。

世間は右肩上りの景気の順調な時期でした。三十歳代後半に担任しました。青年教師の真直中で生徒諸君と向かい合ったことを思い出します。

定年退職後早や十三年目になります。退職後は現役時代には途絶えていた地域の役職が次々と回ってきました。公民館活動では分館長として開かれた公民館活動をモットーとして、全員参加の活動を推進したり、地域の歴史文化を学ぶ会を実施したりして地域の成り立ちを地域住民とともに学習しました。

また、北杜市の郷土資料館の運営委員として資料館活動への助言活動

を、山梨郷土研究会の理事も歴任しました（平成三十年まで）。高根町郷土研究会では地域の掘り起し活動に参画しています。雄大な八ヶ岳を土台にそこに展開されてきた、人々の営みを掘り起こしてみようと思っています。縄文史跡の多い八ヶ岳山麓は災害が少ないと言われていますが、過去には大きな災害山津波がありました。

山麓の湧水を利用しての稲作文化も貴重なものがあります。特に人々が山麓に生活の基盤を置いた、平安時代からの埋もれた貴重な資産を後世に伝えていくのも、我々世代の使命と思い、資源発掘に精を出しています。

また、六十五歳以上割引制度を多に活用して様々な施設の見学、青春18きっぷを使つての再発見旅行を楽しんでいます。

二反ほどの畑の管理で草刈りも大変ですが、家庭菜園で取れたての旬の野菜を食すのはこのうえない喜びです。

平成二十九年十二月に今回当番幹事の昭和六十二年三月卒業生諸君の同窓会準備会がありました。その時の様子を詠んだ詩が、平成三十年五月三日付「山梨日日新聞・文芸ひろば漢詩欄」に掲載されました。

「師友集」 手塚和義

放情同志結交人 共酔坐深鐘日新
久濶卅年師友集 高歌路遠惜青春

三十余年ぶりに会う生徒もあり、楽しいひと時を過ごすことができました。今回もまた楽しい一時を過ごすことと思います。

広告目次

あ

| | |
|--------------------|-----|
| (株)アースワークス | 78 |
| アール・アイ・ピー | 98 |
| (株)Sファーマシー ハートフル薬局 | 99 |
| (有)アイエス企画 | 50 |
| (有)相原商事 | 96 |
| (株)アイ・プランナー | 90 |
| (有)アウテリアあかざわ | 90 |
| アウトブラン | 22 |
| アカオライフプロジェクト(株) | 79 |
| (株)アカシャ | 74 |
| 秋山酒類販売(株) | 84 |
| (有)アクティブ丸井 | 97 |
| 浅川熱処理(株) | 59 |
| あさぎ経営サポート | 60 |
| 浅沼行政書士 | 96 |
| 朝日 | 98 |
| 芦沢整形外科医院 | 106 |
| (株)アシストエンジニアリング | 82 |
| 味魅 | 84 |
| アスフィール(株) | 108 |
| (株)遊屋 | 34 |
| 厚芝商会 | 67 |
| (株)アドヴォネクスト | 49 |
| 株式会社アトム薬局 | 85 |
| (株)天鳥 | 67 |
| (株)網倉本店 | 98 |

| | |
|-------------------|-----|
| アルフィー | 89 |
| アルプス事務機(有) | 91 |
| アワーズ整骨院はり灸院 | 100 |
| (株)アଙ୍କ | 90 |
| (有)アンリミット・ジャパン | 55 |
| い | |
| 飯島工事 | 104 |
| (有)イイジマコーポレーション | 107 |
| 飯田鉄工(株) | 64 |
| (株)いえプロ | 97 |
| (有)イシイ石油 | 94 |
| 石川法律事務所 | 98 |
| (株)石黒工務店 | 21 |
| 石坂屋 | 93 |
| (株)石友 | 8 |
| 石山耳鼻咽喉科クリニック | 105 |
| いすゞ自動車首都圏(株) | 81 |
| 磯部公認会計士税理士事務所 | 70 |
| イタリアンレストラン・バーるびい | 96 |
| (有)いち囲 | 98 |
| 一高陸上部 | 95 |
| 稲積神社 | 91 |
| 井上鋼材(株) | 89 |
| (株)いのまた | 92 |
| 今村耳鼻咽喉科めい・難聴クリニック | 87 |
| 岩下クリーニング店 | 89 |
| 岩下内科医院 | 79 |
| イングリッシュプラス(株) | 101 |
| (株)インテリアワコー | 32 |
| (株)印傳屋 | 65 |

| | |
|---------------------|-----|
| う | |
| Vent計画設計室 | 105 |
| 総合広告代理店WILL | 54 |
| (株)魚宋(魚そう本店) | 102 |
| (有)ウオッシュ&ポリッシュユティーズ | 83 |
| うさぎや製菓 | 92 |
| 内川自動車工業 | 104 |
| うなぎあげぼ | 99 |
| え | |
| Aプラス設計 | 40 |
| (株)エコ・フカサワ | 39 |
| SMB C日興証券(株) | 61 |
| (株)エヌディエス | 84 |
| N. PLAN | 105 |
| 江間歯科医院 | 102 |
| (株)エム・クラフト | 37 |
| 塩山舗装 | 104 |
| エンゼル動物病院 | 70 |
| 円明寺 | 35 |
| お | |
| (有)奥義 | 85 |
| 桜美林大学 | 95 |
| 総合印刷 王社社(メモリアルキューブ) | 108 |
| (株)オーエムシー | 20 |
| (株)オオキ | 80 |
| (有)大木自動車 | 98 |
| 大久保内科呼吸器科クリニック | 77 |
| 大関食品(有) | 87 |
| (株)太滝(フ راشア) | 72 |
| オオタ総合食品 | 92 |

| | |
|-------------------------|-----|
| オートグラス山梨 | 94 |
| 大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校甲府校 | 59 |
| 大森歯科医院 | 106 |
| (株)小笠原商店 | 96 |
| (株)岡電気設備 | 75 |
| 小川歯科医院 | 98 |
| (株)オギノ | 9 |
| オギノインシュランスサービス | 95 |
| オギノ食糧 | 90 |
| 荻野利和 | 71 |
| 小口マタイ(株) | 97 |
| 奥山管材機器 | 103 |
| 奥山製パン | 90 |
| (有)奥山電装商会 | 100 |
| (株)オサダ | 61 |
| 長田組土木(株) | 27 |
| 長田産婦人科クリニック | 76 |
| おざわ歯科医院(おざわクリニック) | 96 |
| (有)オズ・プリンティング | 79 |
| おそうじや本舗甲府営業所 | 87 |
| 小田切塗装(株) | 104 |
| オフィスアウジーテ | 72 |
| か | |
| カーテンじゅうたん王国(マイホームインテリア) | 77 |
| (有)甲斐絹屋 | 84 |
| (株)甲斐興運 | 100 |
| (有)カイコマCC | 83 |
| 甲斐ゼミナール | 62 |
| 甲斐日産自動車(株) | 78 |
| 甲斐保険事務所 | 99 |

| | | | | | | | |
|---------------|-----|----------------|-----|-------------------|-----|---------------------|-----|
| かおるバンケット | 106 | (株)きものあさ川 | 49 | 小泉教室 | 96 | (資)甲府風月堂 | 45 |
| (有)角市 | 96 | キューエット | 83 | (株)工藝舎 | 71 | (医)立星会 甲府南ライフケアセンター | 4 |
| 学社会 | 102 | 京呉服ふじや | 80 | 甲州地どり市場 | 87 | 甲陽建機リース | 103 |
| 梶山クリニック | 77 | (医)共生会NAC湯村 | 53 | 向上企画 | 92 | (株)興龍社 | 71 |
| カツオのわら焼き熊鯨 | 59 | 共同電設(株) | 98 | 甲信建設 | 104 | 宏和建設(株) | 90 |
| 割烹きよ春 | 67 | 共同プリント社 | 105 | 河野スポーツ(株) | 102 | コーエー(株) | 90 |
| 割烹三井 | 99 | 協和産業(株) | 60 | 河野造園土木(株) | 84 | (有)コージーライフ | 109 |
| 桂寿司 | 91 | (株)ギリオン | 167 | 河野宝飾 | 86 | 国際勸業(株) | 108 |
| (有)加藤左官工業所 | 27 | 近畿日本ツーリスト甲府支店 | 100 | 甲府蒼療整院 | 92 | 国際建設(株) | 44 |
| (株)加藤商会 | 106 | (有)キング珈琲 | 82 | 甲府朝日三郵便局 | 107 | 五光電工(株) | 28 |
| 社会医療法人 加納岩 | 46 | く | 100 | 甲府一高昭和42年卒業生一同 | 86 | 心音(福島整骨院) | 85 |
| カフェ パザパ | 93 | 貢川進徳幼稚園 | 100 | 甲府一高S56年卒同窓会「百新会」 | 41 | 輿石修 | 94 |
| cafe foo | 92 | 久喜設計 | 90 | 甲府一高昭和58年卒同窓会 | 17 | コジマ | 97 |
| KOLORS HAIR | 88 | 申揚げ深澤亭 | 99 | 甲府一高昭和59年卒同窓会 | 30 | (有)小島精肉店 | 100 |
| (株)カラーボックス中央店 | 47 | (有)グットケアー | 83 | 甲府一高昭和60年度卒業生一同 | 41 | (株)コスモエナジー | 81 |
| カラオケカフェ カナリヤ | 95 | クラウンパレス | 100 | 甲府一高昭和61年同窓会 | 166 | コットンクラブ(Blue Moon) | 79 |
| (株)河合楽器製作所甲府店 | 95 | グリーンイーグル | 55 | 甲府医療秘書学院 | 85 | 後藤法律事務所 | 102 |
| (株)カワチャ装飾 | 97 | (株)クリエイトパートナーズ | 70 | 甲府記念日ホテル | 15 | (株)古名屋(古名屋ホテル) | 56 |
| 河村自動車工業 | 94 | KuRu&食堂山小屋 | 12 | (株)甲府キンダイサービス | 109 | 小林歯科医院 | 92 |
| 寛酔 | 95 | グローブガーデン | 26 | 甲府警備保障(株) | 68 | (有)小林燃料店 | 106 |
| (有)管清社 | 102 | 群芳園 | 87 | 甲府紙器(株) | 81 | (有)コバヤシビデオ | 23 |
| き | | け | | 甲府下石田食堂 | 91 | 小林リース | 109 |
| 公益財団法人 キープ協会 | 25 | (株)京王プラザホテル | 53 | 甲府信用金庫 | 47 | (株)小林冷機 | 29 |
| 季生 | 92 | (医)恵信会 恵信甲府病院 | 38 | 甲府スポーツ | 88 | ごはんBARちろりん村 | 109 |
| 菊地原歯科医院 | 105 | げんきっこ保育園 | 99 | 甲府青果(株) | 52 | (株)小松電工 | 105 |
| 北野医院 | 55 | 健志堂整骨鍼灸院 | 70 | 甲府倉庫(株) | 66 | 小宮山音楽教室 | 93 |
| (有)キタムラ | 85 | 健友堂クリニック | 85 | (有)甲府中央 | 88 | (株)米福 | 54 |
| 吉川外科・整形外科医院 | 71 | こ | | 甲府中央魚市(株) | 57 | 小山医院 | 87 |
| (株)きぬや | 98 | (株)小泉 | 167 | 学校法人甲府西幼稚園 | 86 | コラーニ | 81 |
| ギフトランドSATO | 94 | (株)小泉中部 | 47 | 甲府脳神経外科病院 | 63 | 小料理克 | 100 |

| | | | | | |
|--------------|-----|-----------------|-----|------------------|-----|
| 近藤医院 | 94 | サントレコム | 85 | 須具整形外科医院 | 88 |
| さ | | 山東水産 | 103 | 須賀建設 | 107 |
| (株) 齊木煙火本店 | 102 | サントリーコーポレートビジネス | 30 | 杉田小児科医院 | 68 |
| 三枝酒店 | 109 | 山日YBSグループ | 表2 | 学校法人 鈴木学園富士幼稚園 | 83 |
| (有) 三枝自動車工業 | 91 | サンビルド(株) | 83 | 鈴木歯科医院 | 101 |
| さいとうクリニック | 109 | (株) サンポー | 93 | 鈴木製菓(株) | 21 |
| 斉藤内科循環器科医院 | 79 | 三友自動車工業(有) | 89 | 鈴健興業(株) | 107 |
| 境川カントリー倶楽部 | 表4 | サンライズ(株) | 106 | 須田自動車工場 | 92 |
| 酒折宮 | 91 | 三和電材(株) | 84 | スナック むーぶ | 89 |
| (株) 坂本建運 | 68 | (株) 三和リース | 80 | (有) スミデンFee | 85 |
| 桜こどもクリニック | 83 | し | | 炭火焼肉 野・野 | 106 |
| 櫻林 腎・内科クリニック | 67 | (株) ジー・エフ・アイ | 102 | スリーエスオート | 103 |
| 酒のディアーズ | 87 | (株) ジーベック | 36 | Slow life | 107 |
| (有) ささごん | 89 | シオジマ歯科医院 | 101 | せ | |
| 笹本環境オフィス(株) | 73 | 塩島会計事務所 | 90 | 学校法人聖愛幼稚園 | 109 |
| 笹本自動車整備工場 | 104 | 歯科若尾 | 106 | セイ動物病院 | 72 |
| (有) ササモスタジオ | 87 | 敷島金属工業(株) | 96 | 積水ハウス(株) | 42 |
| 慧(さとい) | 103 | 寿司・割烹 治作鮎 | 72 | 関野税務会計事務所 | 94 |
| 佐藤建材金物 | 106 | 曹洞宗 天真山 自性院 | 168 | 関野法律事務所 | 94 |
| サドヤ | 105 | (株) システムインナカゴミ | 108 | セコム山梨(株) | 94 |
| (株) 佐渡屋 | 101 | (有) 篠原電研 | 74 | セブンイレブン甲府伊勢1丁目店 | 57 |
| サニクリン申信越 | 102 | 篠原貿易(株) | 97 | (株) セレクト(マリアージュ) | 63 |
| 佐野工建(株) | 100 | (株) 島田貴金属 | 19 | (有) 千秋舎 | 82 |
| (株) 澤田屋本店 | 92 | 清水オートボディサービス | 28 | センチス21 | 90 |
| さわ淵 | 80 | 清水行政事務所 | 95 | そ | |
| 三共消毒 | 105 | 清水クリニック | 77 | 創甲斐建築設計社 | 97 |
| (有) 山軽自工 | 84 | (有) シミズ酒販 | 81 | 創建アシスト | 68 |
| サンコー電化 | 85 | 清水食器(株) | 93 | 総合看板松美宣伝 | 95 |
| 山進興業 | 93 | シミックホールディングス(株) | 65 | (有) 総合葬祭河野 | 100 |
| (株) サンテック | 20 | 志村内科医院 | 77 | 創造秋山 | 107 |

| | | | | | |
|------------------|-----|-------------------|-----|-----------------------|-----|
| 創夢(株) | 33 | 玉諸歯科 | 99 | (株)中沢薬局(ふれあい薬局) | 57 |
| ソネット | 95 | (株)タンザワ | 52 | (株)中嶋文夫プラスディー・エイ設計事務所 | 80 |
| た | | ち | | (有)中日本測量 | 87 |
| THALLIA | 78 | TEAM57 | 23 | (株)中村建設 | 83 |
| ダイアナ フォーレ | 88 | TEAMロクゼロ東京 | 80 | なかむら内科クリニック | 92 |
| 第一観光(株) | 83 | 中央エコテック | 82 | なかむら保育園 | 88 |
| 太冠酒造(株) | 85 | (株)中央車輦販売 | 103 | ナカムラ宝飾 | 93 |
| 大甲工業 | 96 | 中央電気(株) | 52 | (株)中家製作所 | 109 |
| 大三工業(株) | 108 | 中央ベニヤ(株) | 105 | (有)名取通商 | 50 |
| (株)大成電気 | 99 | (株)中部環境開発 | 90 | 七沢歯科医院 | 101 |
| (株)ダイタ | 64 | つ | | 波道水産 | 101 |
| (株)大統 ダイトースターレーン | 82 | (株)土屋工業 | 70 | 成田自動車工業 | 97 |
| (株)大日ママクリン | 56 | つゆきこどもクリニック | 69 | なるみや | 103 |
| 大丸商事(株) | 11 | 露木耳鼻咽喉科 | 88 | 南信工営 | 66 |
| 太陽建機レンタル | 101 | ソルタ設備 | 96 | に | |
| 太陽社 | 38 | 鶴田電気(株) | 87 | 201ゴルフ会(S56卒メンバー) | 64 |
| (株)太陽設計 | 106 | (株)鶴田不動産鑑定 | 77 | 肉ビストロKAGURA | 82 |
| (有)高野牛肉店 | 107 | 鶴田法律事務所 | 101 | 西東京観光バス(株) | 106 |
| 滝沢鍼灸院 | 102 | ツルヤ化成工業 | 86 | 西東京予備校 | 102 |
| 滝田建材(株) | 75 | て | | (株)ニシノ建設管理 | 103 |
| (医)悠紀会 武井医院 | 68 | ディーライト | 26 | (株)日医工山梨 | 49 |
| (医)武川会 | 50 | てっばん秀 | 107 | (有)日眼甲府薬局 | 71 |
| (株)武田広告社 | 3 | (株)テレビ山梨 | 103 | 日星(株) | 69 |
| 武田神社 | 74 | (株)電通システム | 84 | (株)日設工業 | 55 |
| 竹野総合事務所 | 87 | (株)テンヨ武田 | 73 | (有)ニド | 98 |
| (有)タスク星野 | 94 | と | | 二宮公俊 | 10 |
| (株)タダノテクノ東日本 | 102 | 東栄 | 104 | 二宮眼科医院 | 103 |
| 田中会計事務所 | 61 | (株)東海日動パートナーズEAST | 14 | (株)日本旅行甲府支店 | 93 |
| 田中造園 | 89 | 東京セキスイハイム | 89 | (株)ニュー平和 | 73 |
| (株)たまパッケージ | 108 | 東京日野自動車(株) | 73 | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------------|---------------|-----|----------------------|-----------------|-----|-------------------------|-----|----------------------|-----|
| ね | ネットトヨタ甲斐(株) | 6 | ひ | (有)ピアジュエリー | 49 | 富士急トラベル | 100 | 細田工業所 | 24 |
| の | のざわ耳鼻咽喉科クリニック | 71 | b r i g h t | (医)小宮山会 ひかり眼科医院 | 103 | 富士工業 | 99 | ホテル平安 | 48 |
| (有)野中製材所 | | 72 | (株)樋川建設 | | 105 | 富士島建設(株) | 53 | ホテル吉野 | 87 |
| n o h o n o h o | | 83 | (株)樋口 | | 76 | 藤原整形外科 | 91 | 堀内・平嶋法律事務所 | 80 |
| 野村證券(株)甲府支店 | | 109 | 樋口歯科医院 | | 101 | 富士見歯科医院 | 86 | ま | |
| は | (株)ハートフルスタッフ | 91 | ひはらクリニック | | 106 | ふじやま温泉(富士急行(株)) | 58 | 前田内科クリニック | 86 |
| 萩原石油 | | 93 | ヒューコムエンジニアリング(株) | | 19 | 富士冷暖(株) | 74 | マコト医療精機 | 29 |
| (株)萩原ボーリング | | 58 | 平川重機 | | 107 | 豊前医化(株) | 58 | (有)マックス工業 | 74 |
| 萩原勝公認会計・税理士事務所 | | 89 | 平山運送 | | 104 | 双葉クリニック | 101 | まど屋 | 45 |
| 博東電気商会 | | 75 | (株)ビルト | | 32 | PRIZMATIC STONE/神谷映像事務所 | 108 | 丸十山梨製パン(株) | 94 |
| (株)はくばく | | 18 | 廣川工業所 | | 104 | (株)BLOOM | 97 | (株)マルモ | 46 |
| はじめ設備工業 | | 37 | (有)ヒロキハウジング | | 84 | ブルコギレストラン秘仙 | 95 | み | |
| (株)長谷川製作所 | | 97 | 広瀬鷹工業 | | 104 | (株)古屋 | 97 | 味可美 | 98 |
| 長谷川豊店 | | 105 | 廣瀬醫院 | | 48 | 古屋歯科医院 | 107 | 御崎神社 | 94 |
| 畑歯科医院 | | 100 | (有)ヒロ野草研究所鍼灸院 | | 107 | (株)ブレイン | 82 | 水上タイヤ商会 | 84 |
| 羽中田歯科医院 | | 101 | ふ | | 33 | フロムサウスウエスト | 98 | 三井クリニック | 70 |
| (株)羽中田自動車工業 | | 50 | ファースト | | 91 | ヘアーサロン にちようめ末木 | 85 | 三井歯科医院 | 93 |
| バッカス | | 89 | (株)ファミリーマート(ケイカンパニー) | | 92 | H A I R S J A M | 25 | 三井住友海上火災保険(株) | 51 |
| 花形歯科医院 | | 86 | (有)ファンテック | | 99 | ヘアーメイクRUSTIC | 89 | (株)三井住友銀行甲府法人営業所 | 63 |
| 話し方教室スピーチ・スピーチ | | 94 | フイーネバレンテ | | 99 | ベストプラン小林 | 102 | (株)ミツウロコ | 109 |
| 花の樹 | | 92 | F I X | | 88 | 法事の窓口 (株)メモリアルハート | 40 | 三塚歯科医院 | 88 |
| (有)ハナロ | | 98 | 富桜会 | | 99 | (有)北條油店/三栄自動車(有) | 105 | 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株) | 72 |
| ばば歯科医院 | | 78 | フォトスタジオキャンパス | | 81 | 蓬来軒 | 85 | 三森建設 | 36 |
| (株)馬場設計 | | 78 | (株)フォネット/ポート | | 51 | (有)豊和興業 | 100 | (株)緑が丘設備 | 102 |
| 疾測量(株) | | 108 | 富国生命保険相互会社 | | 35 | (株)保険ドリーム | 99 | (医)社団薬袋レディースクリニック | 76 |
| (株)早野組 | | 13 | ふじいけ | | 108 | 保坂歯科医院 | 91 | (株)湊興(株) 入兆 | 69 |
| パロン宝飾 | | 88 | (株)富士環境 | | 57 | 保坂メディカルクリニック | 93 | (株)三宅建築設計事務所 | 99 |
| | | | | | | 細田眼科医院 | 69 | 妙泉寺 赤木 | 58 |
| | | | | | | | | (宗)神幽現救世真光文明教団 弥勒館 | 83 |

| | |
|------------------|-----|
| わ | |
| (株)YSK e i c o m | 62 |
| (株)ワイ・ジュエリー | 86 |
| 若尾会計事務所 | 109 |
| (株)若尾忠男商店 | 68 |
| わたげの会 | 63 |
| 早稲田育英ゼミナール | 45 |
| 竜王教室 | |
| 渡辺建設興業(株) | 46 |
| 渡辺整骨院 | 86 |

第一三九周年甲府中学・甲府一高同窓会協賛者御芳名

(順不同、敬称略)

健寿会あきやま医院

イイノボディーサービス

今井整形外科医院

(有)上野モータース

うし奥商店

円崎興業

岡島百貨店

奥藤本店

カルク

きもの 紺米

国峰興産(株)

小林 枝美

近藤 正美

佐藤 薫

(株)シンカ山梨

(株)末木組

(株)タケウチ印刷

田中 右紀

田中 博

中央コンクリート工業(株)

(株)中部

(株)ディナック中日本

東和エレベーター(株)

なじみや酒販

社会福祉法人 日新会

(有)ニレ不動産

野澤工業

羽黒工業(株)

ふじいけ

(株)フジコー

富士屋麴

(有)不動産ニュース

古河 通也

ホテル シャレーワシントン

(有)マルイチ中沢

(有)丸松

ミートプラザよだ

水村 勝

三枅建設(株)

(株)明星宝飾

湯村ホテル

六曜館 成澤 秀仁

渡辺 智香子

第 139 周年甲府中学・甲府一高同窓会

学年協賛者氏名

見堀古樋手滝鈴新清齊河上²和山柳森望早馬西土田柴笹小黒菊柿小蛭有有¹
 藤口屋貝塚口木美水藤西野²田川本澤月川場野屋中田本林田崎島崎野原賀田¹
 明浩高憲順浩智宏 潤清隆 太秀澄善弘賢 秀和正克 孝 禎
 彦彦一治郎二雄之聡一貴史 郎人孝人昭一淳創治幸則彦彦清典満哲強要剛武

小長海天山宮平樋野都津種種志権小窪数大兎伊石雨浅³長重小澤小小岡浅山安
 田³切田野野田川山口中筑金元田村太林田野保束藤原宮川³坂野松田松林島野本出
 千和千佳 和 康 正 英文昭広 公雅直宏慎 高 英美由陽ゆ千加暢栄卓
 佳^佳子子子武也茂敏弘篤道浩史寿弘幸洋正司昭紀也隆史 子紀子子り晶子美喜司

武三三松松堀保堀保平原名中土小河窪木君木数大飯飯雨跡浅⁴原野中清里橘小
 川村木野井込坂内坂柳田取山橋林野田村島原野保野窪宮部川⁴田明村水見田野
 智直裕い理礼美美さ朱聖由 悦千多桂美理る礼千朋か啓 恵 聖千晶ひ京多真
 美^{紀づ}子子み香子和香り美美樹睦子恵美子子恵み子秋美り子香子 子子己み子美美

荻⁶森樋坂小柿小長秋饗渡若望宮保保深保土田武鈴末志小久鎌⁵依依山山望村
 野⁶口口林崎野田山場邊月月川坂坂澤坂橋中内木武村林島田⁵田田本下月松
 伸恭亨一泰治満賀奈浩 勇 典正和 智 慎進光春 秀 美悦加和夏ゆ
 大 子子子葉子美子子美司衛健徳幹男紀夫健典朗司一司彦宏一 子子子奈子子み

渡松中中武鈴清小河小饗⁷三丸平名丹長丹小大猪依三深永瀧杉清杉清里坂加片
 邊本山沢田木水林野沢場⁷井山松取澤坂沢泉木股田嶋澤井澤山水浦水吉本藤田
 健 幸哲義宏正 行正 理美きみ真順淳典り克明豊由研 文昭 一徹秀
 宏一賢介哉典好典徹広己 恵子子る美子子子子恵良博浩一威靖彦郎武人次明勇

原長中中齋河窪加小上岩秋望三原中田高清清佐三小今穂【8組】松細日中清小功小青
 沼鳶込藤野田美口野間山月井 原中塚水水野枝山村山 田井本島家池刀川柳
 和ゆ栄佐かかあひ美美敬美正信利和嘉敏信 達誠武 英 如洋 理直あ尚真佳
 美かり子子おりるみみ穂子子子奈子文三弘光郎明一曉也司彦高司 美子忍子美子美木美

依柳望望保古深広原花長中中高志坂小小岸小太江伊飯【9組】山山保深
 田澤月月坂屋沢末田形沢澤野村本小宮山平 和田田原藤沼 山下本延澤
 み聖久恵美正美貴利麗葉尚淳朱和恵か律陽早奈照 博 里な直深
 ち子美津子美和美子絵子子子子美子子おり子子苗子美操美 香美美幸
 (令和元年5月7日現在)

第139周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会組織

■実行委員長：宮川 勇徳
 ■実行副委員長：鈴木 智雄・山本 栄喜

■事務局：

事務局長 柴田 和則
 次長 中沢 幸介

■会計：

■クラス本部長：山本なお美・若月 衛
 ■会計監査：田中嘉一郎
 斉藤 潤一・馬場 淳

■企画本部

■強行遠足部会：

(正) 鈴木 智雄 (2組)
 (副) 清水 宏好 (7組)

■広告部会：

(正) 山本 栄喜 (2組)
 (副) 今村 高 (8組)

■広報・T部会：

(正) 杉山 靖 (6組)
 (副) 加藤 秀明 (6組)

■会員券部会：

(正) 三井 信三 (8組)
 (副) 馬場 淳 (1組)

■記念誌部会：

(正) 志村 光司 (5組)
 (副) 大久保雅司 (3組)

■会場部会：

(正) 深澤 由浩 (6組)
 (副) 秋山美奈子 (8組)

■地域本部
 ■官庁部会：

(正) 荻野 大 (6組)
 (副) 岩間 敬子 (8組)

■H16年卒部会：

(正) 長田 浩志
 (副) 佐々木知菜

■クラス本部：

本部長 田中嘉一郎 (8組)
 副本部長 窪田 桂子 (4組)

1組 (正) 有田 武
 (副) 許山 聡

2組 (正) 斉藤 潤一
 (副) 浅野 暢美

3組 (正) 小林 広幸
 (副) 伊藤 宏紀

4組 (正) 名取 由樹
 (副) 窪田 桂子

5組 (正) 若月 衛
 (副) 長田満里子

6組 (正) 清水 武
 (副) 丹澤真由美

7組 (正) 小沢 行広
 (副) 日本 忍

8組 (正) 田中嘉一郎
 (副) 山下 里香

9組 (正) 長沢 葉子
 (副) 岸 陽子

編集後記

卒業から約30年が過ぎた平成29年の春、第137周年同窓会に集まった同窓生数人から始まった同窓会活動。その後、少しずつ輪が広がり、本当に多くの同級生と再会し協力する中で、何とか第139周年甲府中学・甲府一高同窓会を「甦れ!139年の伝統～深紅の旗の下に～」のテーマのもと開催できることを、大変うれしく感じています。これまで第139周年甲府中学・甲府一高同窓会の開催にあたり御協力・御尽力いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

第139周年甲府中学・甲府一高同窓会
記念誌部会長 志村 光司

139周年 同窓会グッズ

ワイン

- ・パッケージのデザインは、校章をシンボル化し、甲府中学から甲府一高の歴史を印象的かつシンプルに表現したものです。



マフラータオル

- ・甲府中学と甲府一高の校章と創立年を入れ、学校の歴史、伝統を表現しました。
- ・本体色のエンジは、第139周年のテーマの「甦れ!139年の伝統～深紅の旗の下に～」の深紅を彷彿とさせる色合いになっています。



商品名: ジャガードマフラータオル
(本体色: エンジ 本体文字色: ピンク)

どら焼き

- ・138周年同窓会の鈴木浩文実行委員長が社長を務める鈴木製菓で作った記念のどら焼きで、3年連続の販売となります。
- ・パッケージに新元号が入った、今年ならではの記念すべき一品です。



第139周年 甲府中学・甲府一高同窓会

甦れ!139年の伝統 ～深紅の旗の下に～

発行日: 令和元年5月19日

発行: 第139周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会

編集: 記念誌部会 制作・印刷: 株式会社少國民社

同窓諸氏にとって
節目の年、思い出の一日、
記念の一枚をこのページに――。





同窓会案内

第60回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

テーマ 「響け！鐘の音 世代を超えて To be continued…」

サブテーマ 「～心をつなぐ同窓の輪～」

2019年7月6日（土）

当番幹事 昭和56年卒 サブ幹事 平成10年卒

会場：京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿 2-2-1

03-3344-0111（代）

第140周年 甲府中学・甲府一高同窓会

2020年5月16日（土）

会場：甲府 記念日ホテル

当番幹事：昭和63年卒 副当番幹事：平成17年卒

大勢の皆様のご来場をお待ちしております。

祝 同窓会



境川カントリー倶楽部

〒406-0851 山梨県笛吹市境川町小黑坂2266

TEL 055-266-5012 FAX 055-266-4689

URL <http://www.sakaigawacc.com>